



**USER'S
MANUAL**

4ポート ワイヤレスブロードバンドルータ

BLW-04EM

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

4ポートワイヤレスブロードバンドルータ

BLW-04EM

本製品を安全にご利用いただくために

本製品のご利用に際して、以下の警告及び注意をご覧ください必ずお守り下さい。これらの事項が守られない場合は、「感電」「火災」「故障」等が発生する場合があります。これにより使用される方が負傷されたり死亡につながるおそれがあります。

また、万が一に「発火」「発煙」「溶解」等が発生した場合には、速やかに本製品の利用を中止して弊社テクニカルサポートへご連絡いただく様にお願いいたします。



警告

■ 電波に関して

- ・心臓ペースメーカーや補聴器等の医療機器をご利用されている近くで本製品をご利用しないで下さい。
- ・医療機関内での利用は各医療機関の案内及び指示に従って下さい。
本製品の電波出力は低く抑えられておりますので各種医療機器への影響は少ないですが、前述のペースメーカー等への影響もある事から利用に関しては各医療機関の案内及び指示に従って下さい。これは各種医療機器へ影響を与えて事故の原因となるおそれを防ぐ為です。
詳しくは各医療機関へお問い合わせ下さい。
- ・電子レンジの近くで本製品をご利用しないで下さい。
電子レンジからの影響により本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。これにより通信が途絶えたり速度が遅くなったり等の動作が不安定になる事を防ぐ為です。

■ 設置及び保管に関して

- ・動作環境範囲外で利用しないで下さい。
範囲外の温度や湿度の環境にて利用されますと感電や火災等の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・直射日光の当たる場所や暖房器具等の近くで利用しないで下さい。
本製品が過熱する事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・温度変化の激しい場所で利用しないで下さい。
動作環境範囲内であっても温度変化が激しい場所で利用しますと結露等が発生して感電や火災等の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・水や液体が入った容器等本製品をご利用する近くに置かないで下さい。
容器内の水等が本製品にこぼれる事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・本製品を改造及び分解しないで下さい。
改造や分解をする事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。また、改造は法律で禁止されています。

■ 無線機器に関して

- ・本製品で使用する周波数帯は、医療機器、電子レンジ等の産業・科学機器のほか工場の生産ライン等で使用される移動体識別装置用の構内無線局及び特定小電力無線局と重複している為、電波の干渉による障害が発生する可能性があります。本製品の使用を開始する前に必ず本製品の干渉距離内に移動体識別装置用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていない事を確認の上、使用を開始して下さい。
- ・万一本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波の干渉が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更するか本製品の利用を中止して下さい。
- ・その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの事が起きた場合には、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせ下さい。

■ 取り扱いに関して

- ・高温に注意して下さい。
本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると火傷のおそれがあります。
- ・湿気やほこりの多いところに置かないで下さい。
湿気やほこりの多い場所に置く事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・重ねて置かないで下さい。
本製品を重ねて置く事で、不用意に落下したりする事によって故障の原因となるおそれがあります。
- ・振動の多い場所や不安定な場所で利用しないで下さい。
振動の多い場所や不安定な場所で利用する事で、落下したり本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・落下や衝撃に注意して下さい。
本製品を落下させたり衝撃を与えたりする事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。

■ その他

- ・本製品は日本国内でのみ利用して下さい。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品となっておりますので海外での利用は出来ません。また、ご利用の際に各地域の法令や制例等によって利用が禁止されていたり、利用が制限されていないかご確認の上本製品をご利用下さい。
- ・ご利用のコンピュータのバックアップをお取り下さい。
本製品のご利用に関わらず、コンピュータのバックアップを定期的にお取り下さい。これにより不用意なデータの消失や復旧不能時の回避策になるかと思えます。尚、本製品のご利用に際してデータの消失等の障害が発生した場合でも弊社では保証致しかねる事を予めご了承下さい。

このマニュアルの構成

本マニュアルは4ポート ワイヤレスブロードバンドルータ BROAD LANNER「BLW-04EM」の概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

■ 必ずお読みください

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

■ ご使用方法

第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 コンピュータの設定

本製品を使用したインターネットへのアクセスと本製品のWEBブラウザからの設定に必要なコンピュータの設定方法について説明します。

第4章 インターネット接続設定

本製品のインターネットへの接続設定について説明します。

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

第6章 具体的な運用例

本製品の具体的な運用方法を例を挙げて説明します。

第7章 詳細設定

本製品のNAT機能やフィルタ機能等のより詳しい機能の概要について説明します。

■ 付録

付録A ネットワークQ&A

「トラブルかな？」と思われる場合の対応方法について説明します。

付録B 仕様

本製品の製品仕様です。

付録C 工場出荷時の設定

本製品の工場出荷時の設定一覧です。

● マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。
本マニュアルにおける記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

● 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

User's Manual Version 1.0 No.PMN-03-07-JF-BLW-04EM

目次

本製品を安全にお使いいただくために	1
第1章 はじめに	
1. 概要	5
2. 特長	6
3. 梱包内容の確認	7
4. 各部の名称	8
5. 対応機器	11
6. 設定の初期化	12
第2章 ハードウェアの接続	
1. 設置場所について	13
2. 設置	14
3. 無線LANアンテナの調整	14
4. WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する	15
5. LAN側ポートへのコンピュータの接続	16
6. 電源の接続	17
7. 接続の確認	18
第3章 コンピュータの設定	
1. ネットワーク設定 (Windows XP)	20
2. IP アドレスの確認方法 (Windows XP)	22
3. ネットワーク設定 (Windows 2000)	24
4. IP アドレスの確認方法 (Windows 2000)	26
5. ネットワーク設定 (Windows 98/Me)	27
6. IP アドレスの確認方法 (Windows 98/Me)	30
7. ネットワーク設定 (Mac OS9)	32
8. ネットワーク設定 (Mac OS X)	33
第4章 インターネット接続設定	
1. インターネット接続方法の確認	35
2. PPPoE接続の設定	37
3. DHCP接続の設定	41
4. 固定IPアドレス設定	45

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

1.ワイヤレスLANアクセスポイントについて	49
2.ワイヤレスLANクライアントの設定	50

第6章 具体的な運用例

1.ポートを開放したい	59
2.ネットワークゲームをしたい	62
3.コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい	65
4.アクセス制限を行いたい	67
5.アクセスできるコンピュータを限定したい	73
6.特定のWEBサイトにアクセスできないようにしたい	75
7.MACアドレスの調べ方	77

第7章 詳細設定

1.設定画面を開く	79
2.LANの設定	81
3.ファイアウォール設定	83
4.NAT設定	92
5.Dynamic DNS	96
6.システム設定	99
7.UPnP (ユニバーサルプラグアンドプレイ) の設定	102
8.ツール設定	103
9.ステータス	107
10.WAN設定	109
11.無線設定	114

付録A ネットワークQ&A

1.ブロードバンドルータの色々な「?」について	119
2.設定画面	122
3.インターネットにアクセスできない	128
4.その他よくあるお問い合わせについて	136

付録B 仕様

付録C 工場出荷時設定

ユーザー登録について

弊社へのお問い合わせ

質問表

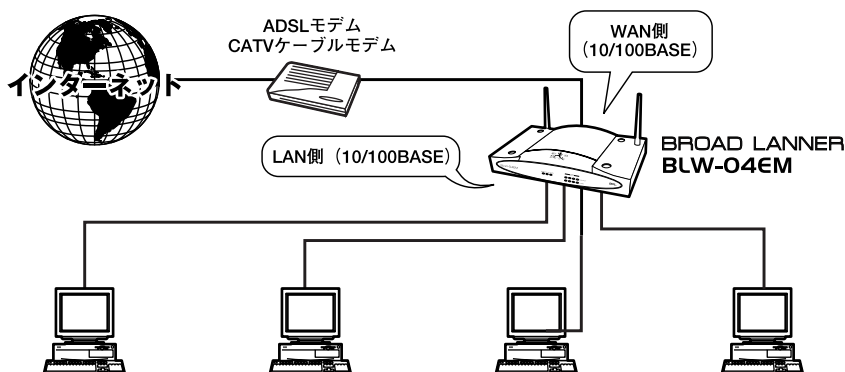
はじめに

1 概要

本製品は、ADSLおよびCATV（ケーブルTV）接続を使ったインターネット接続に対応したワイヤレスブロードバンドルータです。

NAT/IP マスカレード（NAPT）機能によって、1つのIP アドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスできます。またIEEE 802.11bに対応したワイヤレスLAN機能を装備しており、無線アクセスポイントとしても使用可能です。高度なパケットフィルタリングやWEPにより確実なネットワークセキュリティが提供されています。

本製品はWEB ブラウザによって、簡単にセットアップできます。



複数のパソコンで同時にインターネット!

図1-1 BROAD LANNER接続図



注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合もあります。プロバイダとの契約内容についてご確認ください。

2 特長

- ARM7プロセッサによる快適ルーティング
- ADSL、CATV接続などの各種インターネット回線に対応
- NAT/IPマスカレード機能によって1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有できます
- WAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識に対応したRJ-45 STPポートを1ポート装備
- LAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識、Auto MDI/MDI-Xに対応した4ポートスイッチングハブを内蔵
- 802.11b対応ワイヤレスLAN機能を装備、11Mbps無線アクセスポイントとして使用可能
- WAN側ポートはDHCPクライアントに対応（CATV・Yahoo!BB対応）
- WAN側の接続方法は、通常接続のほかPPPoE接続・固定IP接続に対応しています
- LAN側ポートはDHCPサーバに対応（最大253クライアントまで割り当てることができます）
- 無線部はWEP、ESS-IDおよびMACアドレスフィルタによるセキュリティに対応
- ローカルサーバ機能によってTCP/UDPポート別に、LAN側のコンピュータにインターネットからアクセスできます
- バーチャルコンピュータ機能によって、LAN側のコンピュータをインターネットに公開できます
- ファイアウォール機能を装備、インターネットからの攻撃を検出し防御します
- フィルタ機能を装備、LAN側コンピュータインターネットアクセスを制限できます
- UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能に対応しています
- Dynamic DNS（dyndns.org）サービスに対応しています
- WEBブラウザから簡単に設定できます

3 梱包内容の確認

1

はじめに

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確かめてください。

- BLW-04EM本体
- 専用ACアダプタ
- ユーザーズマニュアル CD-ROM
- UTPストレートLANケーブル（1m）
- ゴム足
- ショートコード
- スタートガイド
- 保証書
- 安全に関する説明書

不足品があるときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4 各部の名称

■ 本体前面

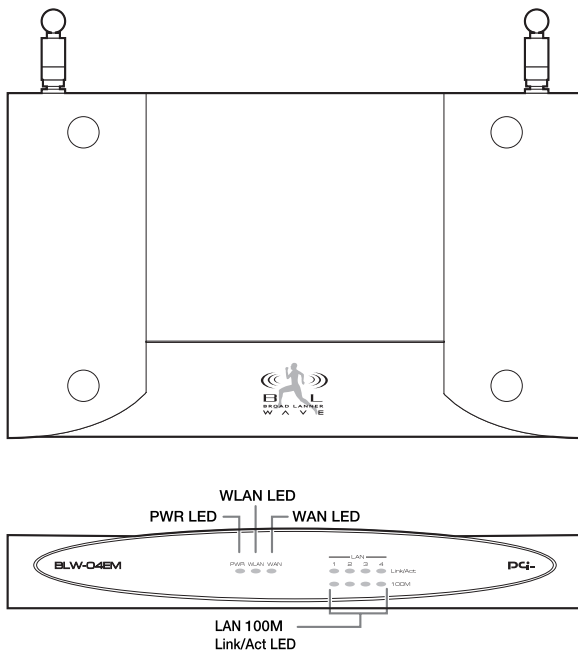


図1-2 BLW-04EM本体前面

「PWR」

本製品に電源が供給されているときに緑色に点灯します。また、本製品の起動準備中に点滅します。

「WLAN」

無線機能が有効なときに緑色に点滅します。

「WAN」

ネットワークへの接続が確立しているときに緑色に点灯します。

「LAN Link/Act」

LAN側ポートのリンクが確立しているときに点灯します。また、各ポートを経由したデータの送受信がある際に点滅します。

「LAN 100M」

LAN側ポートのリンクが100Mで確立しているときに点灯します。
LAN側ポートリンクが10Mで確立しているときには点灯しません。

■ 本体背面

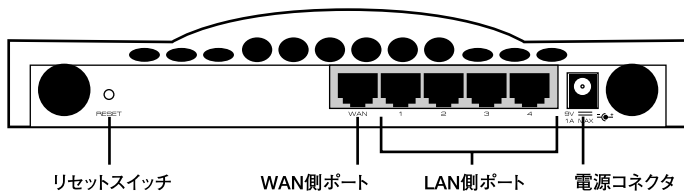


図1-3 BLW-04EM本体背面

「WAN側ポート」

本製品をADSLまたはケーブルモデムと接続するためのRJ-45 STPポートです。

「LAN側ポート」

本製品にコンピュータ、ハブやスイッチを直接接続するためのRJ-45 STPポートです。

「リセットスイッチ」

本製品を再起動するときや、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。

「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。



注意

故障の原因となる可能性がありますので、付属のACアダプタ以外のものをご使用しないでください。

■ 本体裏面

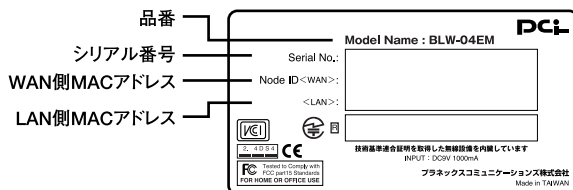


図1-4 BLW-04EM本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要となります。

「LAN側MACアドレス」

本製品のLAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。

「WAN側MACアドレス」

本製品のWAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要なことがあります。そのときはこのWAN側ポートのMACアドレスをプロバイダに申請してください。

5 対応機器

1

はじめに

■コンピュータ機器

◎イーサネット（有線）通信を使用する場合

- Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ
- TCP/IPが利用可能なOS（Mac OS、各種UNIX等）を搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

◎ワイヤレス（無線）通信を使用する場合

- Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、IEEE802.11bに準拠したワイヤレスLANカードもしくはワイヤレスLAN 通信機能を装備したコンピュータ
- AirMacワイヤレスLANカードを装備したMacintoshコンピュータ

■ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

- ツイストペアケーブル（本製品に接続するコンピュータの台数分）

■ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のADSL/ケーブルモデムに対応しています。

- RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ADSLモデム
- RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ケーブルモデム

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまったときや、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときなどに設定の初期化が必要になることがあります。



注意

設定の初期化を行うと、LAN側/WAN側ポートの設定や、フィルタ設定等すべての設定が初期化されます。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。また予期せぬエラーを避けるために本製品に接続しているケーブルを予めポートから外しておくことを推奨します。

本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。

1. 本製品の電源がONの状態、インターネット接続を切断していることを確認します。
切断方法については、7章「9. ステータス」の項目を参照してください。
2. 本製品背面のリセットスイッチを先のとがったペンなどで押します。
3. (約5秒間) リセットスイッチを押したままにしてください。
4. PWR LEDとLAN Link/Act LEDが点滅します。リセットスイッチを離すと初期化が行われます。
PWR LEDが点灯した時点で初期化完了となります。

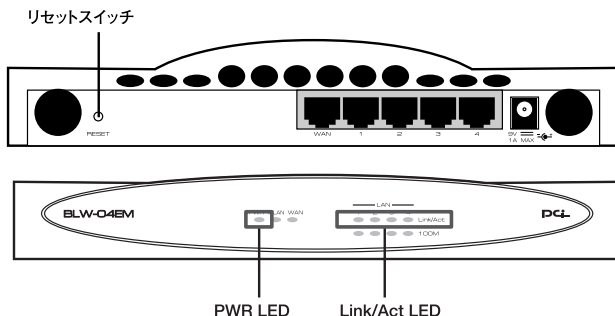


図1-5 リセットスイッチとPWR LEDおよびLink/Act LED

ハードウェアの接続

本

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム等、コンピュータとの接続手順について説明します。

1 設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りくださいますようお願いいたします。

- 湿気の多い場所に設置しない。
- チリやほこりの多い場所には設置しない。
- 直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しない。
- 内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空ける。



注意

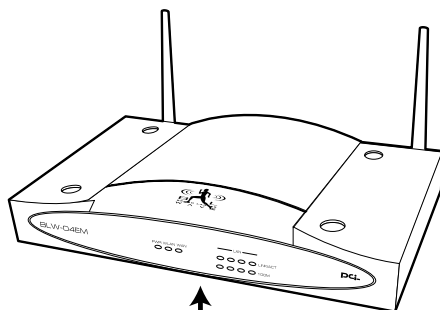
通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的な点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

2 設置

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使ってください。

2

ハードウェアの接続



↑
平らな面

図2-1 本体の設置

3 無線LANアンテナの調整

本製品の2本の無線アンテナの向きを調整してください。

無線LANの信号はアンテナを中心とした同心状に環状に放射されます。このため、2本のアンテナの一方を垂直にし、もう一方を水平に調整すると効果的です。

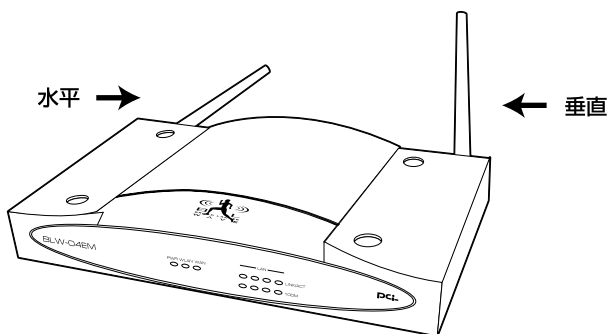


図2-2 無線LANアンテナの調整

4 WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
電源スイッチがないタイプはコンセントからACアダプタを引き抜いてください。
2. 本製品付属のUTPストレートLANケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートを接続します。
RJ-45ポート：モデムによっては「LAN」「Ethernet」などと表記されていることもあります。

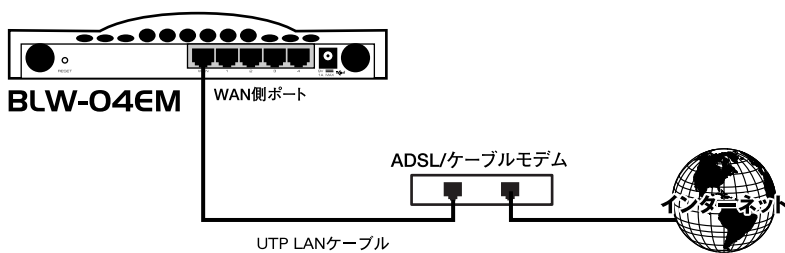


図2-3 ADSL/ケーブルモデムとの接続



注意

本製品のWAN側ポートはMDIポートになっています。また、本製品付属のツイストペアケーブルはストレートタイプです。ご利用になっているADSL/ケーブルモデムのポートがMDIポートのときはクロスオーバータイプのツイストペアケーブルを使用してください。

5 LAN側ポートへのコンピュータの接続

2

ハードウェアの接続

1. LANケーブルの一端を本製品背面のLAN 側ポートに接続します。本製品のLAN 側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI - Xに対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ - 45ポートに接続します。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかり刺さっているか確認してください。

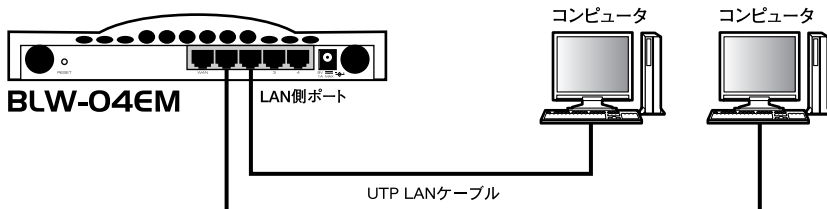


図2-4 コンピュータとの接続

6 電源の接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。
2. 本製品付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。
3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。スペースの問題でACアダプタをコンセントに直接接続できないときは付属のショートコードをお使いください。
4. コンピュータの電源を入れてください。
5. 次項の「2-7. 接続の確認」に進んでください。

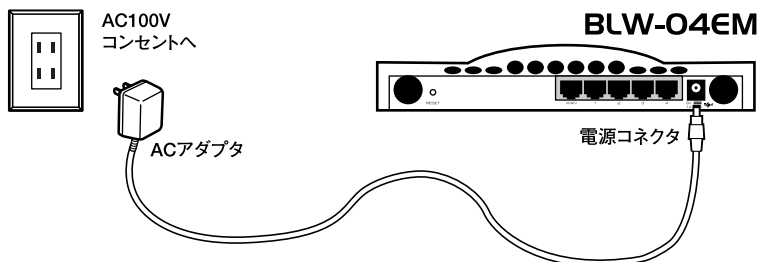


図2-5 電源の接続



注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

7 接続の確認

2

ハードウェアの接続

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPWR、WAN、LAN Link/Actの各LEDが点灯します。これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてお確かめください。

◎PWR

- ・本製品付属のACアダプタを使っていますか？
- ・ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

◎WLAN

- ・本製品の電源が入っていますか？
- ・無線モジュール機能を「無効」にしていますか？
- ・しばらく様子を見てください。それでも点灯しない場合は、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

◎WAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- ・使用しているツイストペアケーブルのタイプは間違っていないか？

◎LAN Link/Act LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・コンピュータの電源は入っていますか？

コンピュータの設定

本

章では本製品を使ったインターネットへのアクセスとWEBブラウザから設定するために必要なコンピュータの設定手順について説明します。コンピュータの設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を完了させておいてください。

3

コンピュータの設定

ご利用のOSに応じて次のページをご覧ください。

- WindowsXP Professional (32bit) 及びHomeEdition の場合
⇒[3-1. ネットワーク設定 \(windows XP\) へ](#)
- Windows 2000 の場合
⇒[3-3. ネットワーク設定 \(Windows 2000\) へ](#)
- Windows 98 (SecondEdition 含む) /Meの場合
⇒[3-5. ネットワーク設定 \(Windows 98/Me\) へ](#)
- Macintosh (Mac OS9) の場合
⇒[3-7. ネットワーク設定 \(Mac OS9\) へ](#)
- Macintosh (Mac OS X) の場合
⇒[3-8. ネットワーク設定 \(Mac OS X\) へ](#)

メモ

作業を始める前にコンピュータにLANアダプタが装着され、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタが装着されていないときは、LANアダプタの追加導入を行ってください。

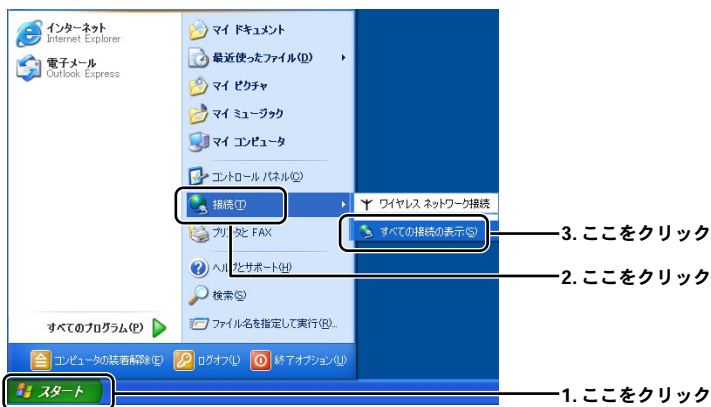
弊社ではPCIバス接続型のLANアダプタ「FW-110TX」をはじめ、ノートパソコンなどに便利なPCカードタイプの「FNW-3700-TX」などいろいろな形態のLANアダプタを取り扱っています。

詳しくは、弊社Webサイト (<http://www.planex.co.jp/>) をご参照ください。

1 ネットワーク設定 (Windows XP)

1. 「スタート」ボタンから「接続」内の「すべての接続の表示」を選択します。

* Windows クラシックスタイルの場合は「スタート」から「設定」内の「ネットワーク接続」を選択します。



- 2 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウを開きます。

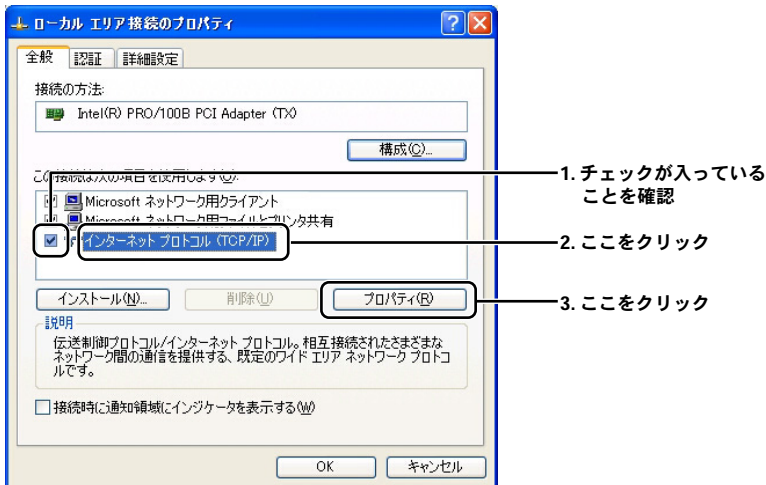
* 「ローカルエリア接続」アイコンが複数ある場合は本製品と接続している機器のアイコンを選択してください。



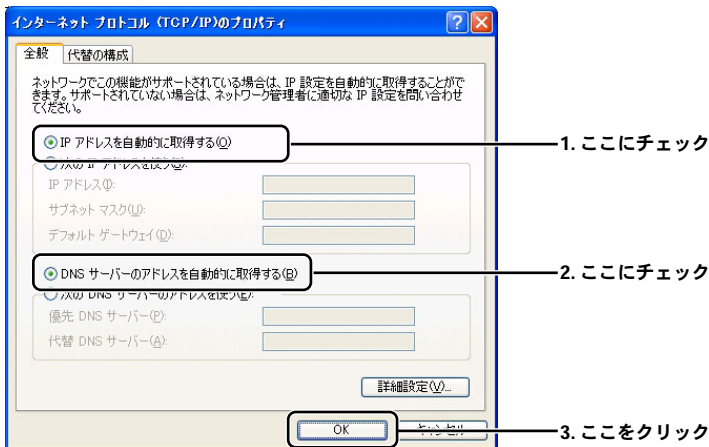
3

コンピュータの設定

3. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択して設定画面を開きます。



4. 「全般」にある各項目を以下のように設定確認します。



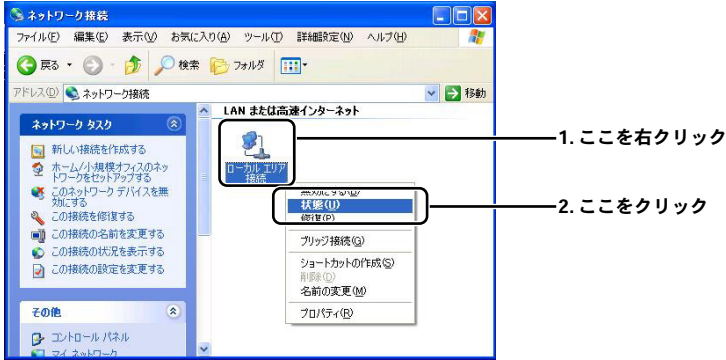
5. 設定を終了します。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。ネットワークの設定は終了です。

2 IPアドレスの確認方法 (Windows XP)

1. 「スタート」から「接続」内の「すべての接続の表示」を選択します。

* Windows クラシックスタイルの場合は「スタート」から「設定」内の「ネットワーク接続」を選択します。



2. 「ローカルエリア接続の状態」が開きます。

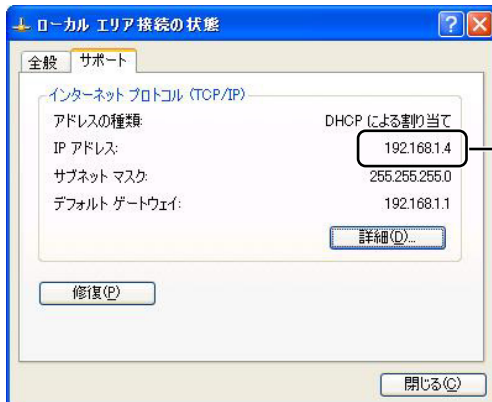
「ローカルエリア接続の状態」の「サポート」タブを選択します。



3

コンピュータの設定

3. IPアドレスなどアドレス情報を確認します。



「192.168.1.xxx」になっていることを確認します

*工場出荷時設定の場合

接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認します。

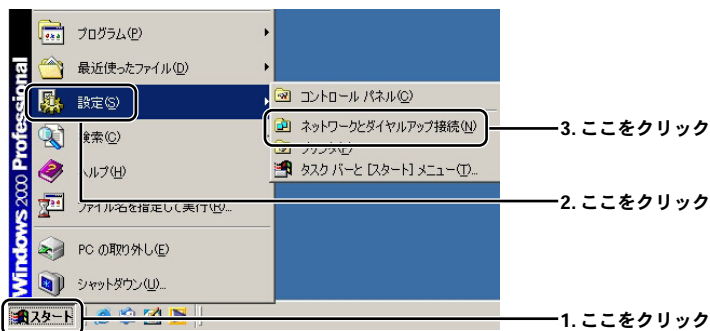
4. 「閉じる」をクリックしてIPアドレスの確認を終了します。

メモ

IPアドレスが0.0.0.0や169.254.***.***という様な表示になっている場合には、一旦コンピュータを再起動してみてください。

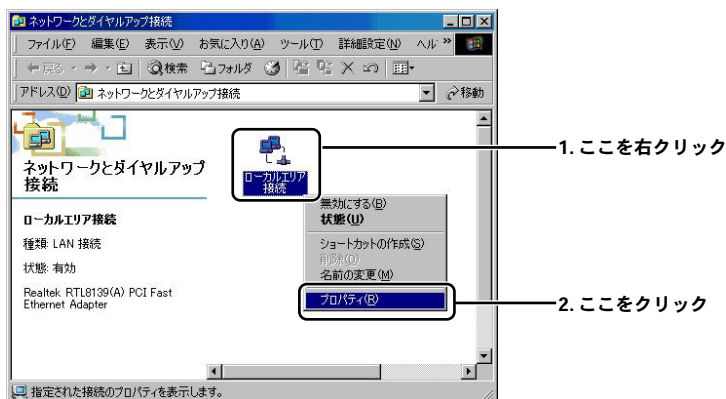
3 ネットワーク設定 (Windows 2000)

1. 「スタート」から「設定」内の「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選びます。



2. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選びます。

* 「ローカルエリア接続」アイコンが複数ある場合は本製品と接続している機器のアイコンを選択してください。

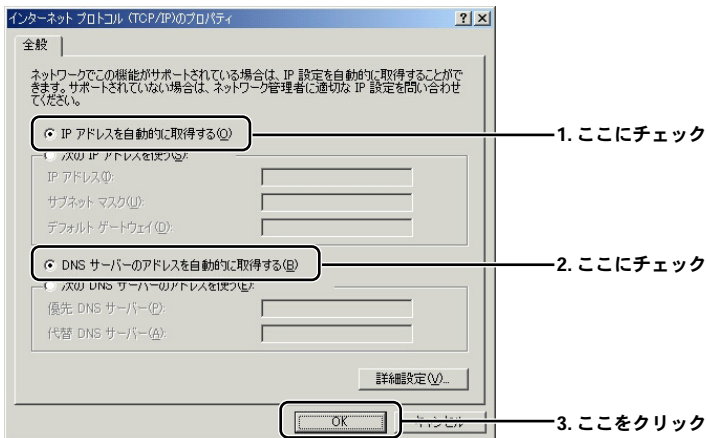


3. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確認して「プロパティ」を開きます。

*もしもない場合は、「F1」キーを押してwindows標準ヘルプのキーワードから「TCP/IPをインストールする」を検索して御参照ください。



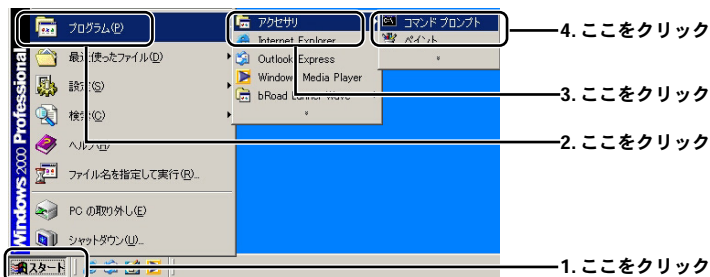
4. 「全般」内の各項目の設定を確認します。



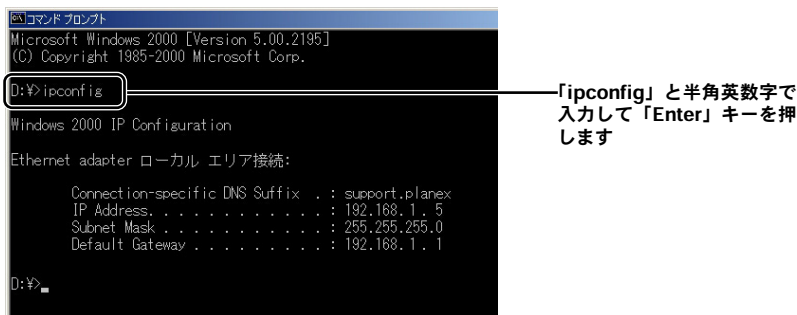
5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るので、その画面を閉じてください。ネットワークの設定を完了します。

4 IPアドレスの確認方法 (Windows 2000)

1. 「スタート」から「プログラム」内の「アクセサリ」より「コマンドプロンプト」を選びます。



2. 「コマンドプロンプト」画面内で「ipconfig」(半角英数字)と入力して「Enterキー」を押します。表示されたアドレス情報を確認します。



接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認

例：「192.168.1.xxx」(「x x x」は任意の数字になります。)

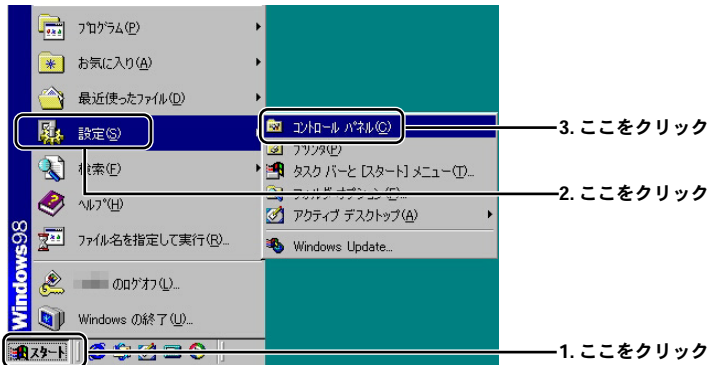
* 工場出荷時設定の場合

メモ

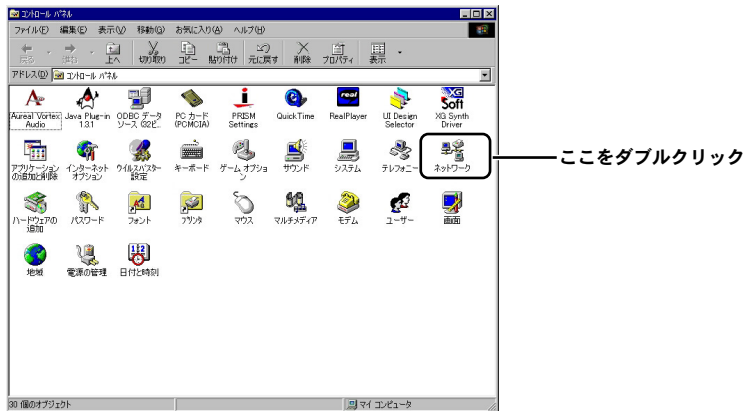
IPアドレスが0.0.0.0や169.254.***.***という様な表示になっている場合には、「コマンドプロンプト」画面内で「ipconfig /release」(半角英数字)と入力して「Enter」キーを押します。その後、「ipconfig/renew」と入力、「Enter」キーを押して、2.のような表示がされるか確認してください。

5 ネットワーク設定 (Windows 98/Me)

1. 「スタート」から「設定」内の「コントロールパネル」を選びます。

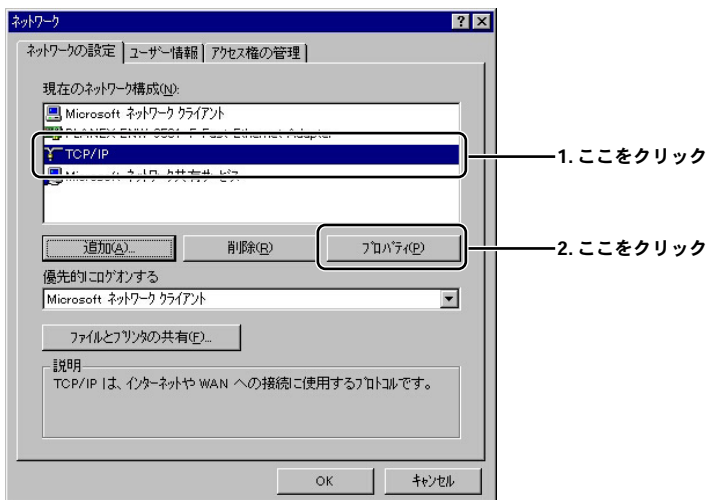


2. 「コントロールパネル」一覧から「ネットワーク」を開きます。

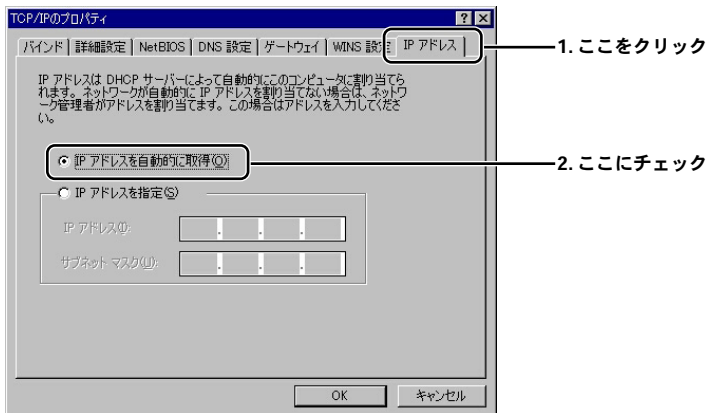


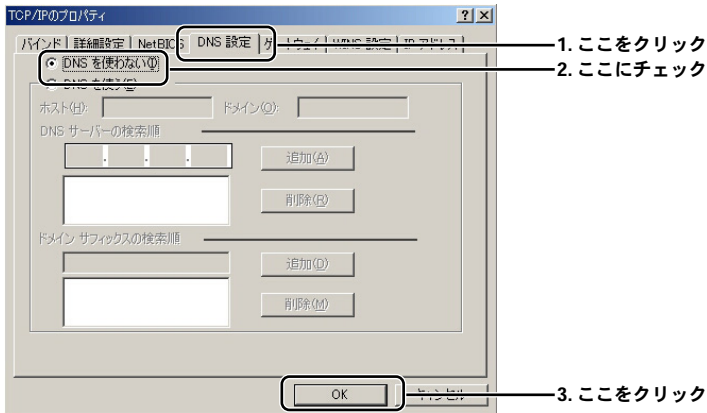
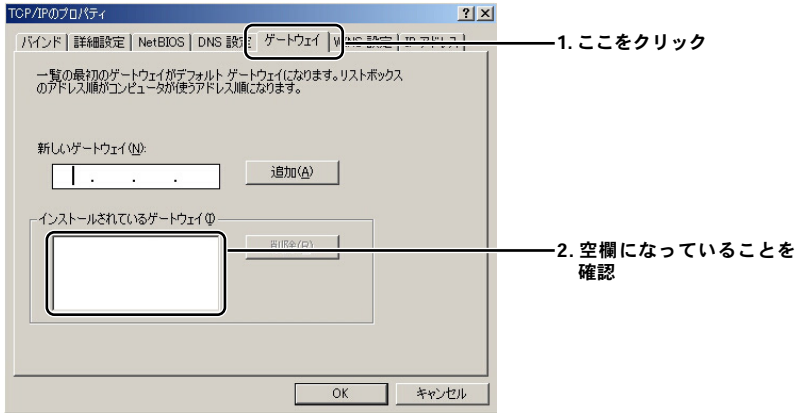
3. 「現在のネットワーク構成」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確かめてください。

* もし、ない場合は「F1」キーを押してwindowsヘルプのキーワードから「ネットワークプロトコルをインストールする」を検索して御参照ください。



4. 「TCP/IP のプロパティ」内の各項目の確認をおこないます。



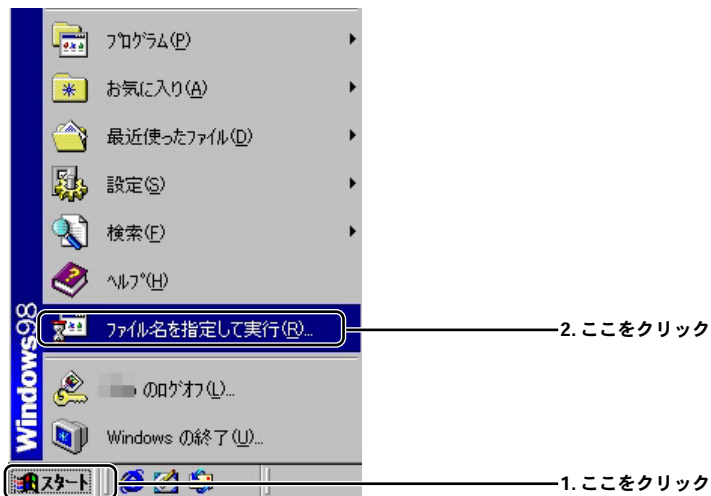


5. 設定を完了させてコンピュータを再起動します。

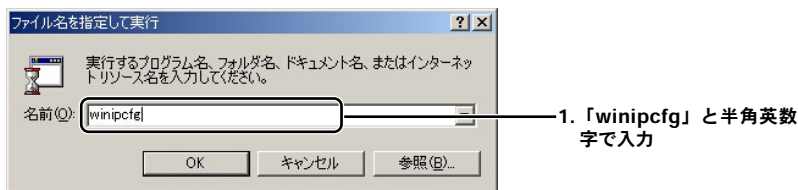
* 自動的に再起動がかからない場合には手動で再起動をかけます。

6 IPアドレスの確認方法 (Windows 98/Me)

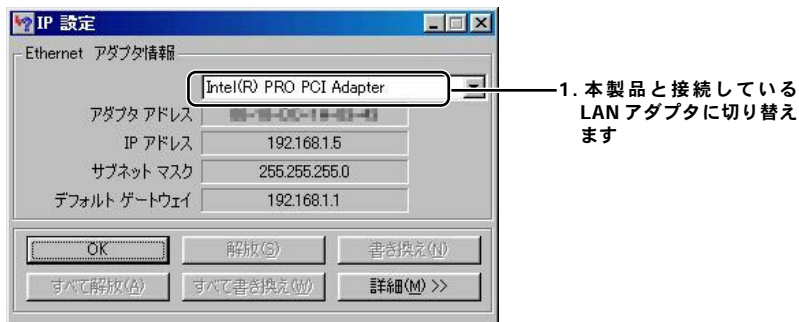
1. 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選びます。



2. 「名前」欄に「winipcfg」(半角英数字)と入力します。



3. 「IP 設定」内でIP アドレスを確認します。



接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認します。

例：「192.168.1.xxx」（「x x x」は任意の数字になります。）

* 工場出荷時設定の場合

メモ

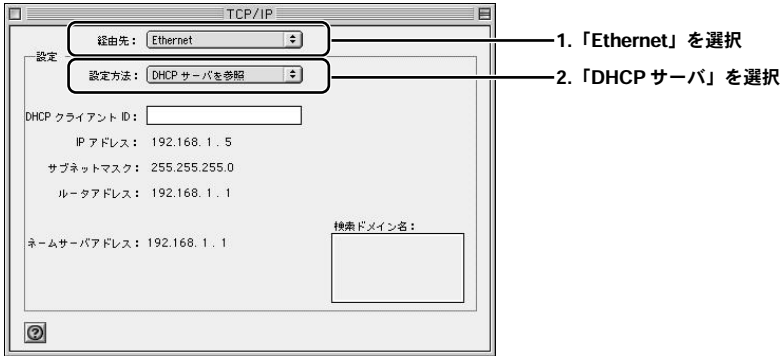
IPアドレスが0.0.0.0や169.254.*.*.*という様な表示になっている場合には、「IP 設定」画面内で「すべて解放」ボタンを押してから「OK」ボタンを押します。その状態から「すべて書き換え」ボタンをクリックして、3.にあるような表示になるか確認してください。

7 ネットワーク設定 (Mac OS9)

3

コンピュータの設定

1. アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を順に選択します。
2. TCP/IPの設定ウィンドウが表示されますので、プルダウンメニューから以下を選択します。



3. TCP/IPの設定ウィンドウを閉じて、Macintoshを再起動します。
4. 起動が完了したら再度「TCP/IPの設定ウィンドウ」を表示してIPアドレス「192.168.1.XXX」になっていることを確認します。
(XXXは任意の数字になります)
ウィンドウを閉じてネットワークの設定を終了します。

8 ネットワーク設定 (Mac OSX)

1. Dockにある [システム環境設定] を開きます。

*もし、Dockに該当のアイコンがない場合は、「アップルメニュー」→「システム環境設定」を選択してください。

2. 「システム環境設定」の「ネットワーク」アイコンをクリックしてネットワーク設定項目を開きます。

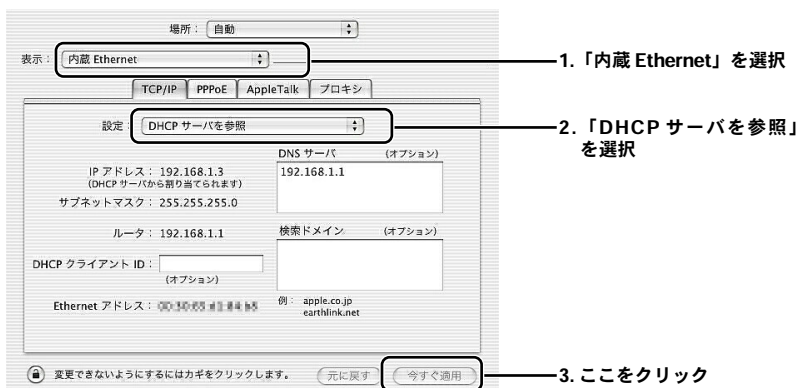


クリック



ダブルクリック

3. 「ネットワーク設定」項目を以下の通り設定します。



4. 再度、「TCP/IPの設定ウィンドウ」を表示してIPアドレス「192.168.1.X」になっていることを確認します。(Xは1以外の任意の数字です) ウィンドウを閉じてネットワークの設定を終了します。



注意

本製品をご使用になる以前に、MacPCから直接PPPoE接続を行っていた場合、MacのPPPoE設定を無効にする必要があります。「システム環境設定」→「内蔵 Ethernet」→「PPPoE」項目を表示して「PPPoEを使って接続する」に入っているチェックを外してください。

3

コンピュータの設定

インターネット接続設定

本

章では本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、セットアップウイザードを使って、インターネットに関する設定を最小限で行います。インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」および第3章「コンピュータの設定」を済ませておいてください。本製品をより詳細に設定したいときは、第7章「詳細設定」を参照してください。

4

インターネット接続設定

1

インターネット接続方法の確認

本製品のインターネット接続の設定は、お客様が契約しているプロバイダとのサービス内容によって異なります。

次の中からお客様のプロバイダとの契約内容にあった接続方法を選択して、本製品の設定を行ってください。また、契約プロバイダより案内されている接続設定情報を予め確認しておいてください。

■PPPoE接続

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」などで採用されているPPPoEプロトコルを使う接続方法です。接続にはユーザ名（アカウント名）とパスワードが必要です。

→37ページ「4-2 PPPoE接続の設定」に進んでください。

■DHCP接続

多くのケーブルテレビインターネット接続サービスや、ヤフー株式会社の「Yahoo! BB」などのサービスで採用されている、DHCP プロトコルを使ってIPアドレスが自動に割り当てられる方法です。

→41ページ「4-3 DHCP接続の設定」に進んでください。

■固定IPアドレス接続

プロバイダにより固定のIPアドレスが提供されている場合はこのオプションを選択します。

→45ページ「4-4 固定IP接続の設定」に進んでください。



注意

- ・本製品を@NetHomeまでご使用になるときは、@NetHomeへのルータ使用の登録が必要です。(2003年6月現在)

4

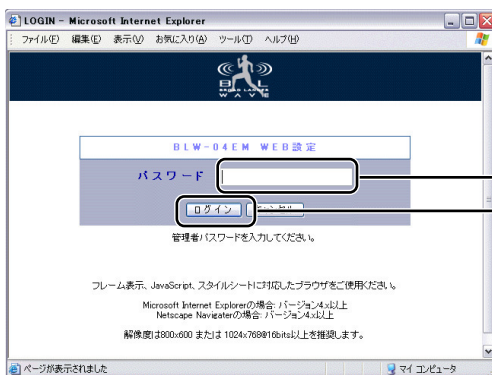
インターネット接続設定

2 PPPoE接続の設定

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ファイアウォールが設定してある、またはセキュリティ関連ソフトウェアが起動している場合は終了してください。これらの影響で設定画面がうまく表示されないことや、設定中にエラーになる場合があります。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくは「詳細設定」で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。
- ・PPPoE接続の場合、本製品が接続処理を行うのでプロバイダから配布されるPPPoE接続ソフトウェアは必要ありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」(本製品のデフォルトIPアドレス)を入力し、Enterキーを押します。
3. 本製品のログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードである「password」をパスワード欄にと入力して、「ログイン」をクリックします。



1. 「password」と入力します
2. クリックします

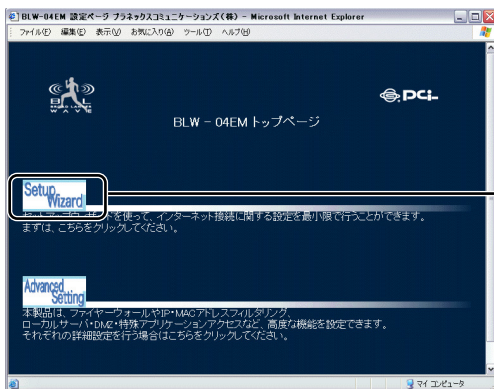
4

インターネット接続設定

4. 本製品のトップページが表示され、セットアップウィザード「Setup Wizard」と詳細設定「Advanced Setting」の2つのオプションが表示されます。「Setup Wizard」のアイコンをクリックします。

メモ

- ・ 「Setup Wizard」は、簡単に素早く本製品の設定を行いたいときに選択します。
- ・ 高度な設定を行うためには、「Advanced Setting」を選択し、本製品のマニュアルの第7章「詳細設定画面」をご参照ください。



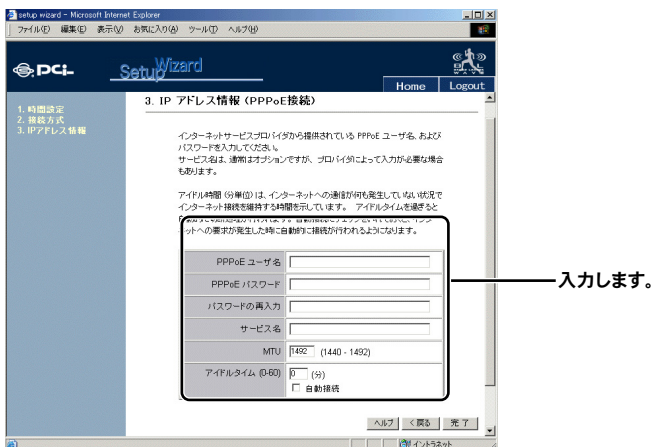
5. 「時間設定」画面が表示されるので、プルダウンメニューから自分のタイムゾーンを選択します。「次へ」をクリックします。



6. 「インターネット接続方式」の設定画面が表示されます。
表示されたオプションの項目から「PPPoE接続」を選択します。



サービスプロバイダに提供された項目を入力します。



「PPPoEユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。

大文字・小文字は区別されますので正確に入力してください。

例 : PCi213456@Planex.co.jp

「PPPoEパスワード」

プロバイダに提供されたパスワードを入力します。大文字・小文字は区別されますので正確に入力してください。また、設定後は入力桁数からのパスワード推測を回避するために無条件に[* (アスタリスク)]表示でマスクされます。

例 : pclBIW04g

「パスワードの再入力」

確認のためパスワードを再入力してください。

「サービス名」

通常はオプション項目であり入力の必要はありません。

「MTU」 (Maximum Transmission Unit)

最大のパケットサイズを示す値です。変更の必要がなければデフォルトのままにしてください。

「アイドルタイム」

待機状態中に、ユーザが何の操作もしていない時に、インターネット接続が維持される最大時間です。設定された時間が過ぎると接続が自動的に切断されます。

設定範囲 : 1～60分

「自動接続」

チェックを入れておくと、インターネットへの要求が発生したときに自動的に接続が行われるようになります。

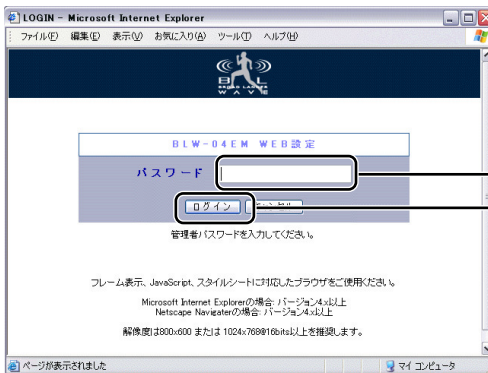
7. 各種入力内容を確認して「完了」ボタンをクリックします。

3 DHCP接続の設定

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス)」にはプロキシを使用しないの欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。
- ・ファイアウォールが設定してある、またはセキュリティ関連ソフトウェアが起動している場合は終了してください。これらの影響で設定画面がうまく表示されないことや、設定中にエラーになる場合があります。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」(本製品のデフォルトIPアドレス)を入力し、Enterキーを押します。
3. 本製品のログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードである「password」をパスワード欄に入力して、「ログイン」をクリックします。



1. 「password」と入力します
2. クリックします

4. 本製品のトップページが表示され、セットアップウィザード「Setup Wizard」と詳細設定「Advanced Setting」の2つのオプションが表示されます。「Setup Wizard」のアイコンをクリックします。

メモ

- ・「Setup Wizard」は、簡単に素早く本製品の設定を行いたいときに選択します。
- ・高度な設定を行うためには、「Advanced Setting」を選択し、本製品のマニュアルの第7章「詳細設定画面」をご参照ください。



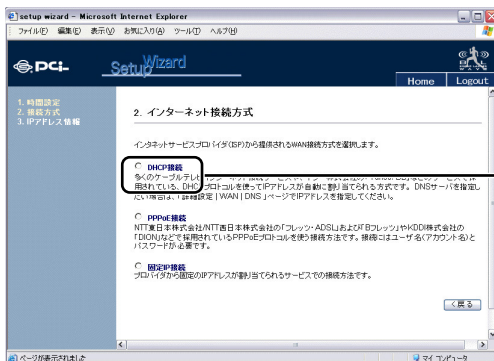
クリックします。

5. 「時間設定」画面が表示されますので、プルダウンリストから自分のタイムゾーンを選択します。「次へ」をクリックします。



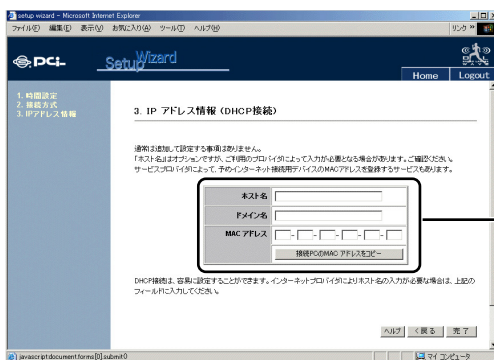
クリックします。

6. 「インターネット接続方式」の設定画面が表示されます。
表示されたオプションの項目から「DHCP接続」を選択します。



選択します。

プロバイダに提供された項目を入力します。



入力します。

「ホスト名」

プロバイダからホスト名が割り当てられている場合は入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダからドメイン名が割り当てられている場合は入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「MACアドレス」

プロバイダへ使用パソコンのMACアドレスを登録している場合に入力します。指定がないときは入力の必要はありません。

7. 各種入力内容を確認して「完了」ボタンをクリックします。



注意

- ・接続が成功しないときは、ホスト名、ドメイン名、MACアドレスなどの設定に間違いがないか確かめてください。
- ・また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

4

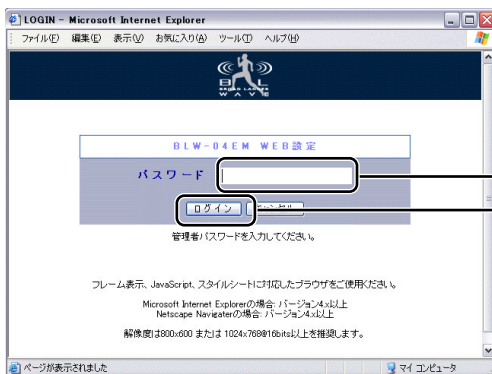
インターネット接続設定

4 固定IPアドレス設定

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示（ツール）」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン（アドレス）」にはプロキシを使用しないの欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。
- ・ファイアウォールが設定してある、またはセキュリティ関連ソフトウェアが起動している場合は終了してください。これらの影響で設定画面がうまく表示されないことや、設定中にエラーになる場合があります。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」（本製品のデフォルトIPアドレス）を入力し、Enterキーを押します。
3. 本製品のログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードである「password」をパスワード欄に入力して、「ログイン」をクリックします。



1. 「password」と入力します
2. クリックします

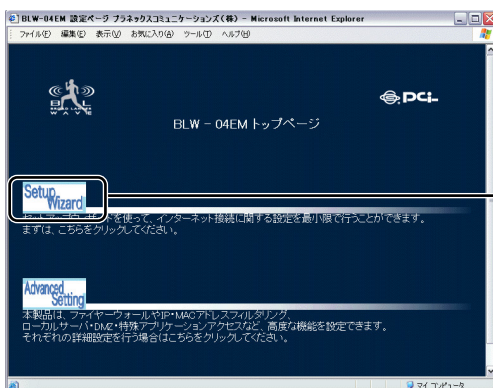
4. 本製品のトップページが表示され、セットアップウィザード「Setup Wizard」と詳細設定「Advanced Setting」の2つのオプションが表示されます。「Setup Wizard」のアイコンをクリックします。

メモ

- ・「Setup Wizard」は、簡単に素早く本製品の設定を行いたいときに選択します。
- ・高度な設定を行うためには、「Advanced Setting」を選択し、本製品のマニュアルの第7章「詳細設定画面」をご参照ください。

4

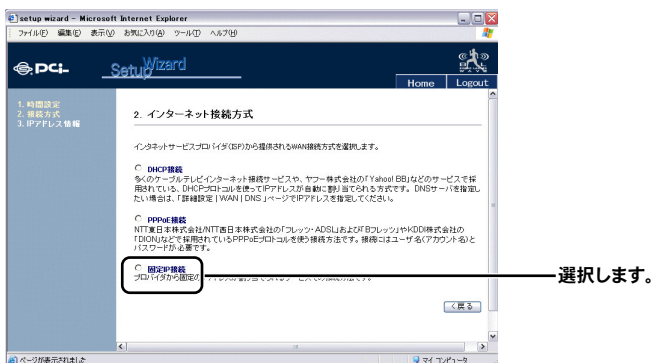
インターネット接続設定



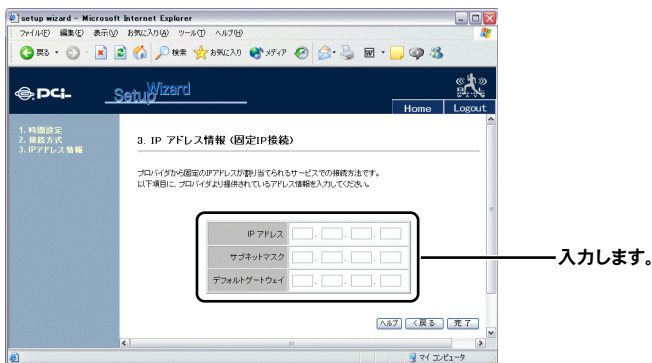
5. 「時間設定」画面が表示されますので、プルダウンメニューから自分のタイムゾーンを選択します。「次へ」をクリックします。



6. 「インターネット接続方式」の設定画面が表示されます。
表示されたオプションの項目から「固定IP設定」を選択します。



以下の項目にプロバイダから提供された項目を入力します。



「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「デフォルトゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

7. 各種入力内容を確認して「完了」ボタンをクリックします。



注意

- ・接続が成功しないときは、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの設定に間違いがないか確かめてください。
- ・また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

4

インターネット接続設定

ワイヤレスLANアクセスポイント

本

章では本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

1 ワイヤレスLANアクセスポイントについて

本製品は、ワイヤレスLANネットワークと既存の有線イーサネットネットワークとを接続するためのアクセスポイントとしても機能します。

本製品を使用することで既存のイーサネットネットワーク資産を利用したワイヤレスLANネットワークをシームレスに構築することが可能です。

本製品はIEEE802.11bに準拠し伝送速度は、11/5.5/2/1Mbpsに対応しています。またESSIDやWEP、MACアドレスフィルタなどに加え、ESS-IDを隠す機能を使用する事でより強力なセキュリティを保つことが出来ます。

「ESS-IDを隠す」機能を有効にすると、本製品はESS-IDの公開を停止します。これにより、他のワイヤレスLANクライアントがサイトサーベイを行っても本製品ワイヤレスLANアクセスポイントを検知できません。言い換えるとESS-IDを予め把握してる関係者だけ通信できることとなりセキュリティを確保したワイヤレスネットワークを運用することができます。

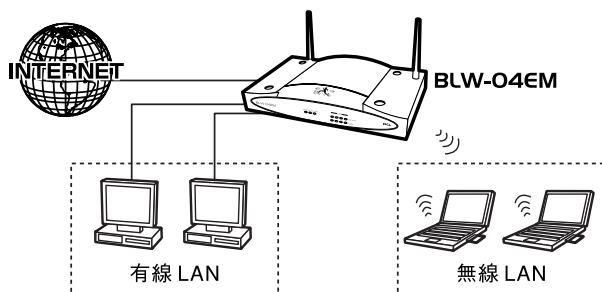


図5-1 ワイヤレスLAN構築例

5

ワイヤレスLANアクセスポイント

2 ワイヤレスLANクライアントの設定

本製品にはIEEE802.11bに準拠したほとんどのワイヤレスLANカードでアクセスすることが可能です。ここではWindows 98/98 SE/Me上で、弊社製品GW-NS11Cを使用した場合を例にとり、アクセスポイントにアクセスする場合の設定方法を説明します。GW-NS11CのインストールについてはGW-NS11Cに付属のマニュアルを参照してください。

特に指示のない項目に対しては、デフォルトの設定を変更する必要がありません。

■WEPを使用しない場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を114ページの「7-11.無線設定」を参照して下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW-04EM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループ"BLW-04EM"が作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信が可能となります。 ESS-IDは任意の文字列を設定できます。 ここでは例としてこの値を使用します。
ESSIDを隠す	無効	ESS-IDを公開します。不特定のワイヤレスLANクライアントからの検索で検知されます。
WEPモード	WEP無効	WEPによる暗号化を行いません。

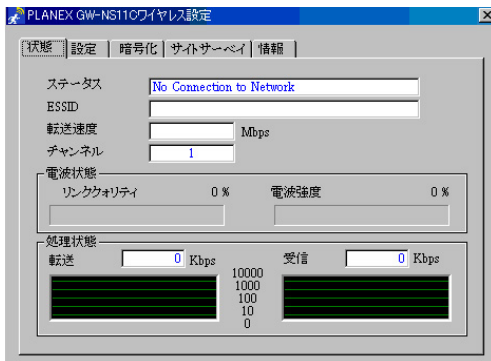
表5-1 WEPを使用しない場合の設定

ESS-ID	<input type="text" value="BLW-04EM"/>
通信速度	<input type="text" value="自動(11.5,5.2,1Mbps)"/>
バースクレート	<input type="text" value="全て(11.5,5.2,1Mbps)"/>
チャンネル	<input type="text" value="自動"/>
ESS-IDを隠す	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

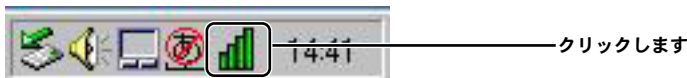
WEPモード	<input type="text" value="無効"/>
<input type="button" value="ヘルプ"/> <input type="button" value="設定"/>	

クリックします。

2. GW-NS11Cをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」→「プログラム」→「bRoad Lanner Wave」→「GW-NS11C Utility」を選択してください。GW-NS11Cの設定ユーティリティが起動します。



ユーティリティ画面が展開されない場合は、画面右下タスクトレイ上のアイコンをクリックしてください。



3. 各設定項目を下記の通りに設定します。

タグ	項目	設定	説明
設定	ネットワークタイプ	Access Point	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
設定	ESSID	BLW-04EM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	WEP有効		チェックマークを外します。

表5-2 ネットワーク各項目設定



4. 「適用」ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上でWEPを使用しない場合の設定は完了です。

■64ビットWEPを使用する場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を行います。114ページの「7-11.無線設定」を参照してください。各項目を下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW-04EM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。

表5-3 WEPを使用する場合の設定

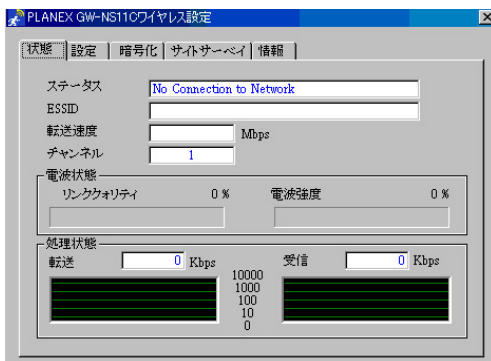
ESS-ID	<input type="text" value="BLW-04EM"/>
通信速度	自動(11.5.5.2.1 Mbps) ▼
ベーシックレート	全て(11.5.5.2.1 Mbps) ▼
チャンネル	自動 ▼
ESS-IDを隠す	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

2. 本製品のWEPの設定を行います。「無線設定」の「WEP設定」をクリックしてください。WEP設定画面が表示されるので、各項目を下記のように設定してください。その後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
WEPモード	64bit WEP	WEP64ビット WEPによる暗号化を行います。
パスフレーズ	0123456789	パスフレーズを入力し、「作成」ボタンをクリックしてください。 アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じWEPキーを設定することでWEPキーを設定している通信機器のみが通信できるようになります。 ここでは例としてこの値を使用します。
デフォルトキー	1	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-4 WEPを使用する場合の設定

3. GW-NS11Cをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」→「プログラム」→「bRoad Lanner Wave」→「GW-NS11C Utility」を選択してください。GW-NS11Cの設定ユーティリティが起動します。



ユーティリティ画面が展開されない場合は、画面右下タスクトレイ上のアイコンをクリックしてください。



クリックします

4. 各項目を下記の通りに設定します。

タブ	項目	設定	説明
設定	ネットワークタイプ	Access Point	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
設定	ESSID	BLW-04EM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。 任意の文字列を設定できます。 ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	認証モード	Auto	WEPキーの認証タイプを設定します。
暗号化	キー長	64bit	64ビットWEPによる暗号化を行います。
暗号化	ネットワークキー	0123456789	WEPキーを作成します。 アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じWEPキーを設定します。 任意の文字列を設定できます。 ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	デフォルトキー	1	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-5 ネットワーク各項目設定



5.「OK」ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上で64ビットWEPを使用した場合の設定は完了です。

5

ワイヤレスLANアクセスポイント

具体的な運用例

本

章では具体的な運用方法を例に挙げて、BLW-04EMのどの機能を使って設定を行うのかをご案内します。

1 ポートを開放したい

BLW-04EMのLAN側にあるコンピュータをサーバとして公開したり、ネットワークゲームをしたりするときは、「ローカルサーバ」機能を使うことができます。特定のポートに対して外部（インターネット）からアクセスがあった場合に、BLW-04EMのLAN側のコンピュータに通信を転送するように設定を行います。

●Webサーバを公開したい

BLW-04EMのLAN上のコンピュータをWebサーバとしてインターネットからアクセスできるようにする場合の設定例です。

※BLW-04EMのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. Webサーバとして公開するコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	192.168.1.1

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。

コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

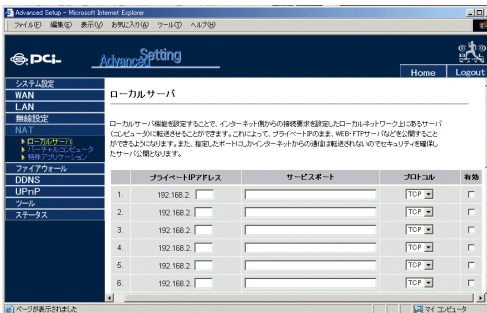
6

具体的な運用例

2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。



3. 本製品の詳細設定画面が表示されますので、画面左側のメニューから「NAT」の「ローカルサーバ」をクリックします。以下のように各項目を設定してください。



プライベートIPアドレス	200 (WebサーバとなるコンピュータのIPアドレスの最後の数字です)
サービスポート	80~80 (HTTPはTCPポート80を使用しています)
タイプ	TCPを選択します
有効	チェックをいれます。

6

具体的な運用例

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。画面が切り替わり、設定変更が完了します。

これで外部（インターネット）からBLW-04EMのWAN側IPアドレスにアクセスがあると、そのアクセスがTCPポート80宛だった場合はBLW-04EMのLAN側の「192.168.1.200」のIPアドレスが設定されたコンピュータへ転送されます。指定されたポート以外へのパケットは破棄されます。

2 ネットワークゲームをしたい

BLW-04EMのLAN上のコンピュータでネットワークゲームをする場合の設定例です。ネットワークゲームは他のプレイヤーの操作した結果が、接続中のサーバから随時送信されてくるため、外部からアクセスが発生することになるので、サーバを公開する時と同じようにしてそのゲームで使用しているポートを開放する必要があります。

※BLW-04EMのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

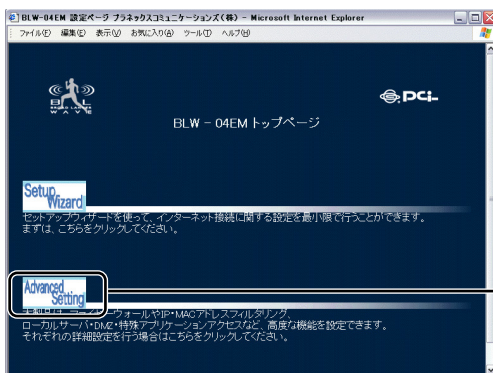
1. ネットワークゲームをするコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	192.168.1.1

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。

コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. WEBブラウザの欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。



クリックします。

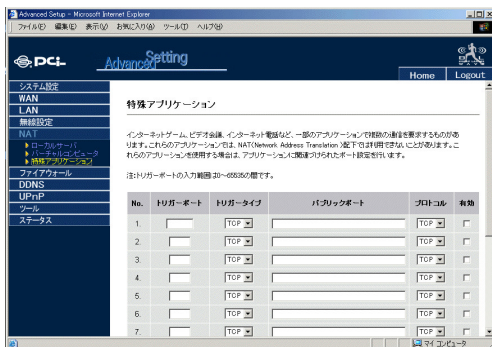
3. 本製品の詳細設定画面が表示されますので、画面左側のメニューから「NAT」の「特殊アプリケーション」をクリックします。以下のように各項目を設定してください

※ここでは「DirectX」対応のネットワークゲームで良く使用されるポートを参考に、設定例を記載します。

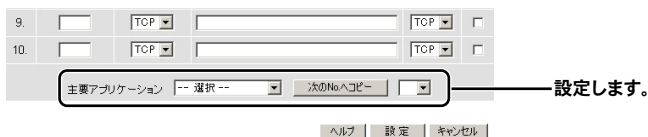
TCP&UDP : 2300-2400

TCP : 47624

を使用する場合の設定例。



設定テーブルの一番下にある項目を設定します。



「主要アプリケーション」

プルダウンリストから「MSN Gaming Zone」を選択します。

「次のNo.へコピー」

右側にあるプルダウンリストから、設定テーブルの項目に当たる番号を選択し、「右のNo.へコピー」をクリックします。

「トリガーポート」、「トリガータイプ」、「パブリックポート」、「プロトコル」、「有効」

各項目が自動的に設定されます。

4. 入力内容を確認し、「設定」ボタンをクリックしてください。
画面が切り替わり、設定変更が完了します。



注意

上記の設定はあくまで一例です。ゲームによって使用するポートが異なってきますので、ゲームの説明書やヘルプ等を参照してそのゲームで使用しているポート番号を確認してください。自動的に設定された項目が異なる値を必要とする場合は、各項目を入力し手動で設定を行ってください。（ただし、必要なポートを設定しても使用できないゲームもありますので予めご了承ください）。

6

具体的な運用例

3 コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい

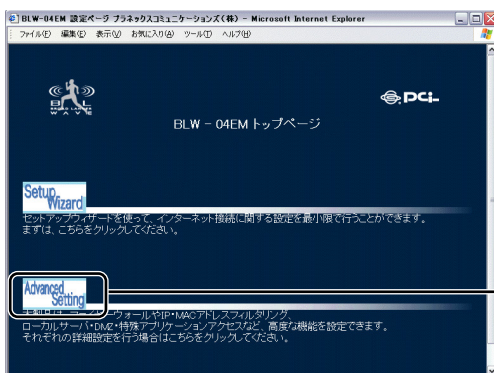
特定のポートだけを開放する「ローカルサーバ」に対して、バーチャルコンピュータは外部（インターネット）からの通信を指定したコンピュータにすべて転送します。ローカルサーバでうまく動作しなかった場合は、バーチャルコンピュータ機能を使用するとうまく動作できる場合があります。

1. バーチャルコンピュータ機能を使用するコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	192.168.1.1

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。

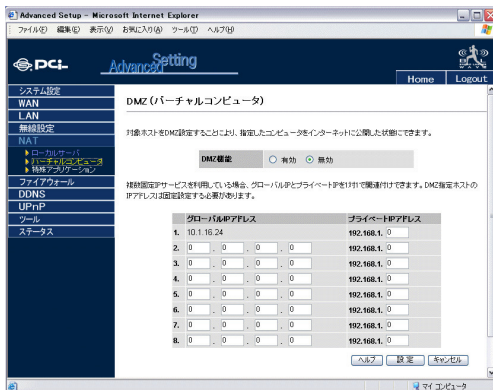


クリックします。

6

具体的な運用例

3. 画面左側のメニューから「NAT」の「バーチャルコンピュータ」をクリックしてください。
以下のように各項目を設定してください。



「DMZ機能」

有効にします。

「グローバルIPアドレス」

デフォルトで設定1にWAN側のIPアドレスが割り当てられています。プロバイダから複数のIPアドレスが割り当てられている場合で、IPアドレスごとに指定のコンピュータに転送したい場合に、追加設定します。

「プライベートIPアドレス」

バーチャルコンピュータ機能を使用するコンピュータのIPアドレスの最後の数字である「200」を入力します。

4. 設定できましたら「設定」ボタンをクリックしてください。



注意

ご利用のアプリケーションによってはバーチャルコンピュータ機能を使っても正常に動作しない場合があります。
バーチャルコンピュータ機能を使っても動作しない場合は、ルータ経由でのご利用が難しい可能性が高いかと思われます。

4 アクセス制限を行いたい

BLW-04EMのLAN側のコンピュータに特定のサービス（Webアクセスやftpアクセス等）を利用させたくないような場合や、BLW-04EMを介してインターネットに接続できるコンピュータを制限したい場合には、「アクセス制限」を使うことで対象となるコンピュータとサービスのポート番号を指定することで制限をかけることができます。



注意

この設定は、設定を間違えるとインターネットへのアクセスができなくなったり、特定のアプリケーションがインターネット接続時に利用できなくなることがありますので、機能を良く理解した上で設定を行うようにしてください。

●ftpを利用できないようにしたい

BLW-04EMのLAN上の「192.168.1.5」のIPアドレスを取得しているコンピュータを、月～金曜の10～17時の間、ftpを利用させたくない場合の設定です。以下の設定では、BLW-04EMのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

6

具体的な運用例

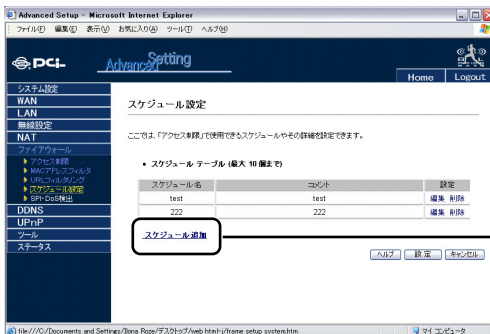
A. スケジュール設定

アクセス制限は、特定のスケジュール（時間・曜日）を基に行います。第1ステップとしては、アクセス制限が有効である時刻を設定します。

1. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。



2. 画面左側のメニューから「ファイアウォール」の「スケジュール設定」をクリックします。次のような画面が表示されますので、「スケジュール追加」をクリックします。



6

具体的な運用例

図のような画面が表示されますので、以下のように各項目を設定し、スケジュール規則の定義を行います。



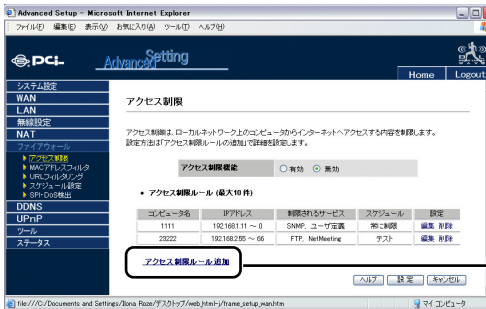
スケジュール名	ftp制限	スケジュール名は任意の名前を設定できます
コメント	月～金：午前10時から午後5	任意のコメントを入力できます
現在の時刻	2003/01/01 1:00:00 AM	現在の時刻が表示されます。
開始時刻(時：分)	「月曜日」から「金曜日」までの項目には「10」「00」と入力します	
終了時間(時：分)	「月曜日」から「金曜日」までの項目には「5」「00」と入力し、プルダウンリストから「PM」を選択します	

3. 設定内容を確認して「設定」をクリックします。

B. アクセス制限の設定

スケジュール規則の設定を終わったら、第2ステップとしてはアクセス制限の設定を行います。

1. 画面左側のメニューから「ファイアウォール」の「アクセス制限」をクリックします。次のような画面が表示されますので、「アクセス制限ルール追加」をクリックします。



2. 図のような画面が表示されますので、各項目を設定してください。



6

具体的な運用例

「アクセス制限ルール名」

任意の名前を設定できます

「アクセス制限IPアドレス」

「192.168.1.5～5」のように入力し、ルールの対象となるコンピュータのIPアドレスの最後の数字を指定します。(対象が1つの場合)。「192.168.1.5～192.168.1.10」のように入力し、IPアドレス範囲を指定して複数のコンピュータを指定することができます。

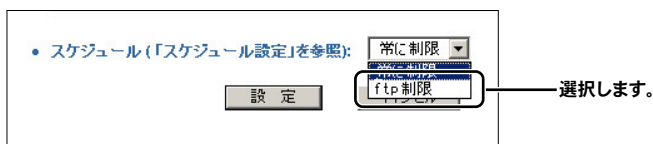
3. 「アクセス制限サービス詳細」のテーブル上から7番目の「ファイル転送」、「FTP、TCPポート21」の右側にある「適用」のチェックボックスにチェックマークを入れます。

• アクセス制限サービス詳細:

サービス名	詳細	適用
WWW	HTTP, TCP Port 80, 3128, 8000, 8080, 8081	<input type="checkbox"/>
WWWとURLフィルタ	HTTP (「URLフィルタ」を参照)	<input type="checkbox"/>
メール送信	SMTP, TCPポート 25	<input type="checkbox"/>
ニュースフォーラム	NNTP, TCPポート 119	<input type="checkbox"/>
メール受信	POP3, TCPポート 110	<input type="checkbox"/>
SSL-PROXY	HTTPS, TCPポート 443	<input type="checkbox"/>
ファイル転送	FTP, TCPポート 21	<input checked="" type="checkbox"/>
MSN messenger	TCPポート 1863	<input type="checkbox"/>
Telnet	TCPポート 23	<input type="checkbox"/>

チェックします。

4. 画面の下部にある「スケジュール (「スケジュール設定」を参照) のプルダウンメニューから「A.スケジュール設定」で設定したスケジュール名「ftp制限」を選択します。



5. 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。

これで「192.168.1.5」のIPアドレスをもつコンピュータは、月曜から金曜の10時から17時の間はftpが利用できなくなります。

■「ユーザ定義」

サービスが使用するポート番号を入力し、アクセス制限を適用させたいサービスを手動で指定することができます。

TCP/UDPプロトコルを選択し、ポート範囲に該当のポート番号を入力します。

ユーザ定義

プロトコル: TCP UDP

ポート範囲: 21 - 21, 333 - 355, 0 - 0

6

具体的な運用例

5 アクセスできるコンピュータを限定したい

BLW-04EMに接続してインターネットにアクセスできるコンピュータを制限したい場合の設定です。この設定を行うと、特定のコンピュータ以外はBLW-04EMを介してインターネットにアクセスできなくなります。



注意

BLW-04EMのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。

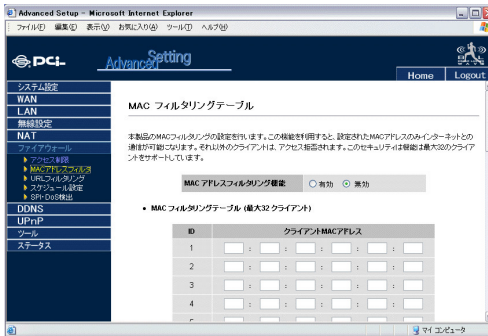


クリックします。

6

具体的な運用例

- 画面左側のメニューから「ファイアウォール」の「MACアドレスフィルタ」をクリックします。



- 「MACアドレスフィルタリング機能」を有効にします。



注意

ここでは「00-90-CC-12-34-56」というMACアドレスのコンピュータからのアクセスだけを許可すると仮定します。

「MACアドレスフィルタリングテーブル」でアクセスを許可するコンピュータのLANアダプタのMACアドレスを指定します。

ID 1: 「00-90-CC-12-34-56」と入力します。
2桁ずつTabキーを押して入力します。
MACアドレスの調べ方は後述のページをご覧ください。

- 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。設定された「00-90-CC-12-34-56」MACアドレスのコンピュータのみネットワークにアクセスでき、それ以外のコンピュータは、アクセス拒否されます。

6

具体的な運用例

6 特定のWEBサイトにアクセスできないようにしたい

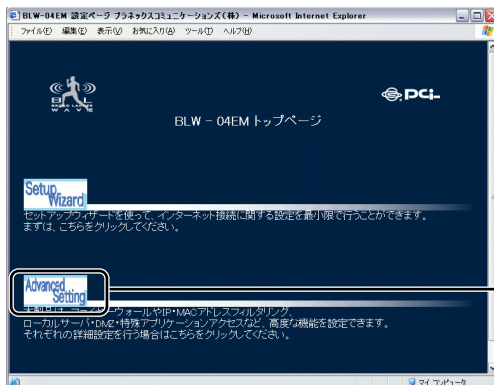
BLW-04EMに接続しているコンピュータが特定のWEBサイトにアクセスできないように制限したい場合の設定です。そのWEBサイトのアドレス (URL)、あるいはサイトに使用されているキーワードを入力することで制限を行います。



注意

BLW-04EMのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押すとBLW-04EMのトップページが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。

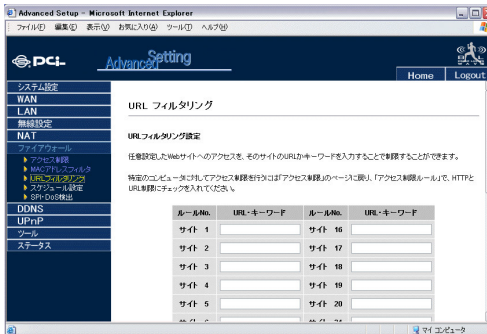


クリックします。

6

具体的な運用例

2. 本製品の詳細設定画面が表示されますので、画面左側のメニューから「ファイアウォール」の「URLフィルタリング」をクリックします。図のような画面が表示されますので、以下のように各項目を設定してください。



「URL・キーワード」

WEBサイトのアドレスまたはキーワードを入力します。

この設定を完了させるためには、83ページの「7-3. ファイアウォール設定」で「アクセスの制限」を設定または変更する必要があります。現在の設定を変更するには、変更したい設定名の左端にある「編集」ボタンをクリックします。設定を新しく追加するには、「アクセス制限ルール追加」をクリックします。

「アクセス制限」の設定画面の「アクセス制限ルール追加」をクリックします。「アクセス制限サービス詳細」のテーブルで、「WWW」 および「WWWとURLフィルタ」の2つのオプションをチェックします。

• アクセス制限サービス詳細:

サービス名	詳細	適用
WWW	HTTP, TCP Port 80, 3128, 8000, 8080, 8081	<input checked="" type="checkbox"/>
WWWとURLフィルタ	HTTP (「URLフィルタ」を参照)	<input checked="" type="checkbox"/>
メール送信	SMTP, TCP ポート 25	<input type="checkbox"/>

→ チェックします。

設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。

これで、指定するWEBサイトやキーワードによるフィルタリングの設定は完了です。

6

具体的な運用例

7 MACアドレスの調べ方

- ・BLW-04EMからIPアドレスを取得している場合（この方法が最も簡単です）

1. 「Advanced Setting」をクリックし、設定画面のメニューから「ステータス」をクリックしてください。
2. 「DHCPクライアントログ」のテーブルには、BLW-04Eに接続中のLAN DHCPクライアント情報を確認できます。

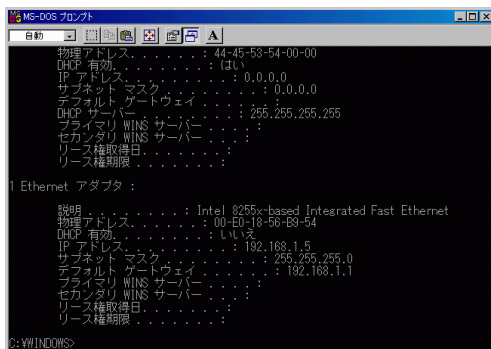


6

具体的な運用例

・コンピュータでIPアドレスを調べる場合 (Windows)

1. 「スタート」→「プログラム」を開き「MS-DOSプロンプト」を選びます。
Windows ME/2000/XPの場合は「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選んでください。



```
MS-DOS プロンプト
物理アドレス . . . . . : 44-45-53-54-00-00
DHCP 有効 . . . . . : はい
IP アドレス . . . . . : 0.0.0.0
サブネット マスク . . . . . : 0.0.0.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . :
DHCP サーバー . . . . . : 255.255.255.255
プライマリ WINS サーバー . . . . . :
セカンダリ WINS サーバー . . . . . :
リース取得日 . . . . . :
リース権期限 . . . . . :

Ethernet アダプタ :

説明 . . . . . : Intel 8255x-based Integrated Fast Ethernet
物理アドレス . . . . . : 00-E0-18-56-B9-54
DHCP 有効 . . . . . : いいえ
IP アドレス . . . . . : 192.168.1.5
サブネット マスク . . . . . : 255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . : 192.168.1.1
プライマリ WINS サーバー . . . . . :
セカンダリ WINS サーバー . . . . . :
リース取得日 . . . . . :
リース権期限 . . . . . :

C:\WINDOWS>
```

6

具体的な運用例

2. カーソルが点滅して入力待ちの状態になったらキーボードから「ipconfig /all」と入力してEnterキーを押してください。
3. 「IPアドレス/IP Address」に「192.168.1.** (最後は任意の数字になります)」と表示されている行の2つ上に「物理アドレス/Physical Address」という行があります。
そこに表示されている12桁の16進数が、そのコンピュータのLANアダプタのMACアドレスになります。

詳細設定

本

章では、WEBブラウザを使用して本製品の各機能の詳細な設定を行う手順を説明します。



注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザをご利用になる必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご利用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使う設定になっていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使わない設定にするか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力します。

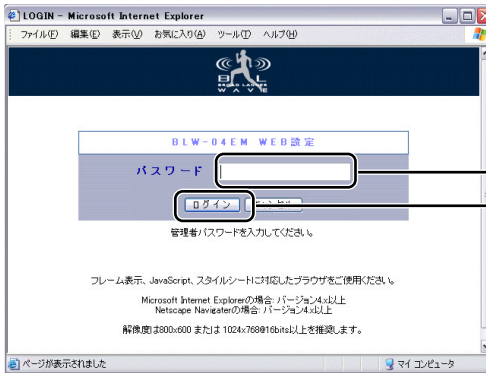
1

設定画面を開く

本製品の設定画面には以下の手順でアクセスしてください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。

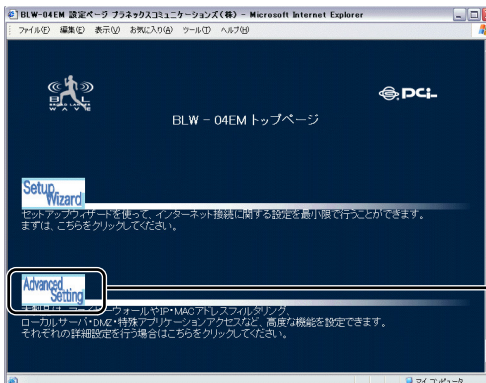
2. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押します。BLW-04EMのログイン画面が表示されますので、パスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックします。工場出荷時や本製品の初期化後のパスワードは「password」です。



1. 「password」と入力します
2. クリックします

BLW-04EMのLAN側IPアドレスが工場出荷時や本製品の初期化後の「192.168.1.1」のままであると仮定します。

- 7
- 詳細設定
3. 本製品のトップページが表示され、「Setup Wizard」セットアップウィザードと「Advanced Setting」詳細設定の2つのオプションが表示されます。「Advanced Setting」をクリックします。



- クリックします。

2 LANの設定

本製品のDHCPサーバ機能の設定を行います。

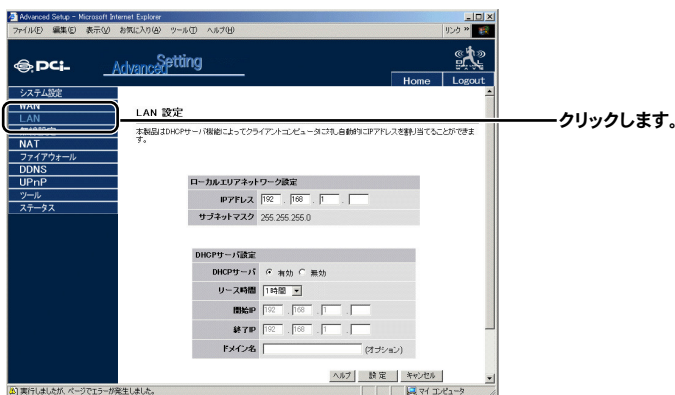
DHCPサーバ機能はDHCPクライアント（コンピュータなど）の要求に応じてIPアドレスなどのネットワーク情報割り当てを自動的に行います。これにより、本製品に接続するPCはネットワーク設定を意識せずに同一ネットワークホストやインターネットへの通信を行うことができますようになります。



注意

各々のPCはDHCPサーバからの自動割り当てを受けるために3章「コンピュータの設定」に従って自動取得設定を有効しておく必要があります。

DHCPサーバの設定を行うには、設定画面の左側にある「LAN」をクリックします。「LAN設定」画面が表示されます。



「ローカルエリアネットワーク設定」を行います。

IPアドレス

BLW-04EMのLAN側IPアドレスを設定したいときに入力します。

「DHPC サーバ設定」を行います。

「DHCPサーバ」

有効：

DHCP機能を有効にすると、DHCPクライアント機能を利用しているコンピュータに下記設定内容に基づいてネットワーク情報の自動割り当てを行います。(工場出荷時は有効になっています。)

無効：

本製品のDHCPサーバ機能を利用しない場合に「無効」設定を行ってください。

例：本製品と別にDHCPサーバを設置している

各PCのネットワーク情報を手動で設定管理を行う場合など

「リース時間」

必要な場合はリース時間 (DHCPで割り当てするアドレスの有効期限) を設定します。ホームネットワークの場合は、IPアドレスを開放するまでの時間制限がないようにリース時間を「無制限」に設定することができます。

「開始IP」

DHCPサーバ機能の割り当てIPアドレス範囲の開始アドレスを指定します。

入力範囲： 1～254 初期値： 20

「終了IP」

DHCPサーバ機能の割り当てIPアドレス範囲の終了アドレスを指定します。

入力範囲： 1～254 初期値： 50

例えば、開始IPを「192.168.2.100」に、終了IPを「192.168.2.199」に設定すると、「192.168.2.100」から「192.168.2.199」までのアドレスが自動的に割り当てられます。

「ドメイン名」

オプションです。通常は入力する必要がありません。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。



注意

- ・DHCP サーバで割り当てるIP アドレス範囲に本製品のLAN 側ポートのIP アドレスが含まれないように設定してください。
- ・DHCP割り当て範囲の設定は、「ローカルエリアネットワーク設定」テーブルと連動した範囲で行うようにしてください。
例えば、「LANIPアドレス」を192.168.1.1、「サブネットマスク」を255.255.255.240とした場合、ネットワーク範囲は、192.168.1.0～192.168.1.15までとなります。ここで「開始アドレス」が"100"だった場合、DHCP割り当てを受けたホストは本製品との通信が出来なくなります。
- ・DHCPサーバの設定を変更した場合は、必ず本製品からログアウトしてください。ログアウトをしない場合、本製品の設定画面にアクセスできなくなる場合があります。

3 ファイアウォール設定

本製品を不正な攻撃、ハッカーなどから保護するために設定を行います。アクセス制御、MACアドレスフィルタリング、バーチャルコンピュータ (DMZ) などの設定が可能です。

ファイアウォールは、ネットワークのユーザを守るシステムです。また、コンピュータの性能にほとんど影響がないので有効にすることを推奨します。

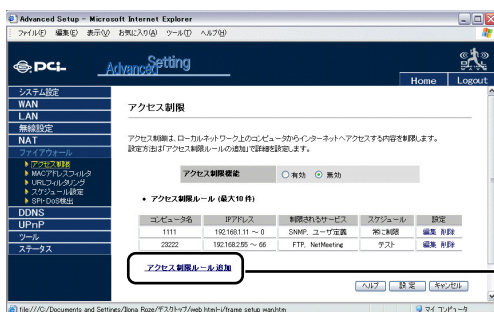
■アクセス制限

本製品は、LAN側のコンピュータのアクセス制限を行うことができます。WEB参照やE-mailの使用など、特定のインターネットサービスの利用を曜日や時間を指定して制限します。

一つのアクセス制限ルールごとに、以下のような形式をとります。

- ・クライアントコンピュータのIPアドレス別にアクセス制御を行います
- ・制限する対象の方向 (該当するもののみ/該当しないもの全て) を決めます
- ・アクセス制限ルールを適用させる時間帯を設定します
- ・管理するサービス (ポート範囲) を設定します

BLW-04EMの設定画面の左側にある「ファイアウォール」の「アクセス制限」をクリックします。次のような画面が表示されますので、「アクセス制限ルール追加」をクリックします。



—クリックします。

7

詳細設定

図のような画面が表示されます。



7

詳細設定

「アクセス制限ルール名」

任意の名前を入力できます。分かりやすいルール名を設定します。

「アクセス制限IPアドレス」

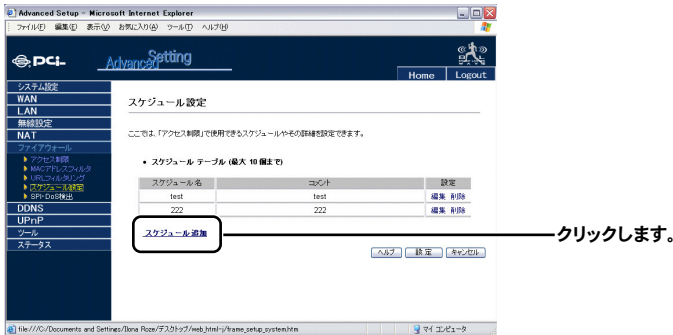
ルールの対象となるコンピュータのIPアドレスの最後の数字を指定します。

「アクセス制限サービス詳細」テーブル

アクセス制御のサービス名の一覧です。「適用」欄のチェックボックスにチェックマークを入れると、「アクセス制限IPアドレス」で指定したコンピュータが該当のサービスを使用できなくなります。

◎ アクセス制限を特定のスケジュール（時間・曜日）をもとに行いたい場合

本製品の設定画面の左側にある「ファイアウォール」の「スケジュール設定」をクリックします。次のような画面が表示されますので、「スケジュール追加」をクリックします。



各項目を設定し、スケジュール規則の定義を行います。



「スケジュール名」

任意の名前を入力します。分かりやすいスケジュール名を設定します

「コメント」

任意のコメントを入力します。

「現在の時刻」

現在の時刻が表示されています。

7

詳細設定

「曜日」

スケジュールを適用させる曜日です。

「開始時刻(時:分)」

スケジュールを適用させる時間帯の開始時間です。

「終了時間(時:分)」

スケジュールを適用させる時間帯の終了時間です。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

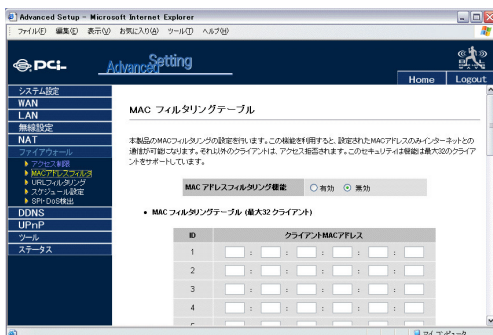
画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■MACアドレスフィルタ

本製品のMACアドレスフィルタリング機能を使用すると、不正なクライアントのネットワークアクセス制限を行うことができます。アクセスの許可はクライアントコンピュータのMACアドレスごとに行われます。

BLW-04EMの設定画面の左側にある「ファイアウォール」の「MACアドレスフィルタ」をクリックします。



「MACアドレスフィルタリング機能」

有効にします。

「MACフィルタリングテーブル」

クライアントコンピュータのMACアドレスを入力します。最大64のコンピュータを登録することができます。このテーブルに設定されたMACアドレスのコンピュータのみがインターネットへのアクセスを許可されます。

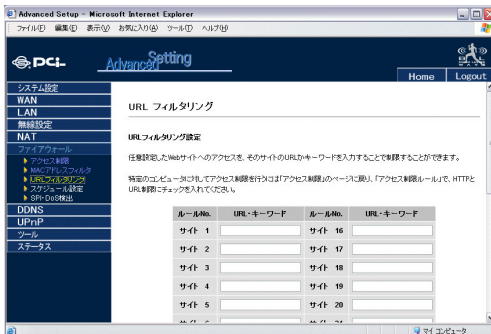
入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。
画面が切り替わり、設定変更が完了します。
設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■URLフィルタリング

あるWEBサイトへのアクセスを制御したい場合はURLフィルタリング機能を使用することができます。

WEBサイトのアドレス、あるいはキーワードを入力してサイトを特定します。指定したWEBサイトの制御がネットワークに反映されます。

BLW-04EMの設定画面の左側にある「ファイアウォール」から「URLフィルタリング」をクリックします。次のような画面が表示されますので、各項目を設定します。



「URL・キーワード」

WEBサイトのアドレスまたはキーワードを入力します。

この設定を完了させるためには、「アクセス制限」の画面でアクセスの制御の設定を行います。

「ファイアウォール」の「アクセス制限」をクリックし、表示された画面で「アクセス制限ルール追加」をクリックします。



クリックします。

「アクセス制限サービス詳細」テーブル

「WWW」および「WWWとURLフィルタ」の2つのオプションにチェックを入れます。

• アクセス制限サービス詳細:

サービス名	詳細	適用
WWW	HTTP, TCP Port 80, 3128, 8000, 8080, 8081	<input checked="" type="checkbox"/>
WWWとURLフィルタ	HTTP (「URLフィルタ」を参照)	<input checked="" type="checkbox"/>
メール送信	SMTP, TCP ポート 25	<input type="checkbox"/>

チェックします。

7

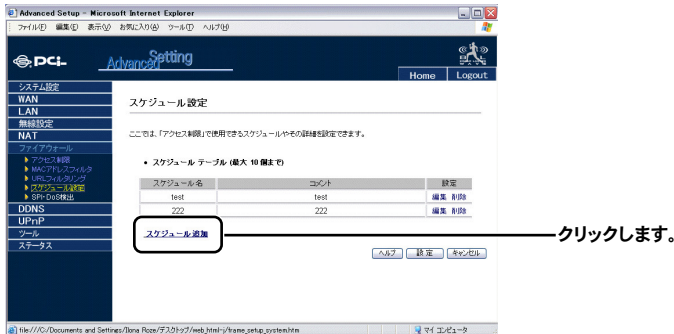
詳細設定

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。画面が切り替わり、設定変更が完了します。設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■スケジュール設定

スケジュール設定機能は、日付と時間による特定の制御ルールを設定することが出来ます。これらのルールは、アクセス制御やURLフィルタリングをさらに詳細に設定するために利用します。

BLW-04EMの設定画面の左側にある「ファイアウォール」から「スケジュール設定」をクリックします。



●スケジュール設定方法

「スケジュール追加」をクリックします。

表示される「スケジュール設定」画面でスケジュールを定義します。

「設定」ボタンをクリックして設定を保存します。



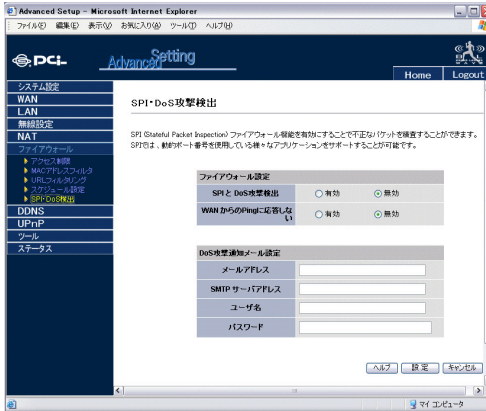
👉 メモ

スケジュール設定の詳しい設定方法には、68ページの「6-4.アクセス制限を行いたい」の「A.スケジュール設定」をご参照ください。

■ SPI・DoS検出

SPI (Stateful Packet Inspection) ファイアウォール機能を有効にすることでWAN側から到着した不正なパケットを精査することができます。SPIでは、動的ポート番号を使用している様々なアプリケーションをサポートすることが可能です。

BLW-04EMの設定画面の左側にある「ファイアウォール」から「SPI・DoS検出」をクリックします。



7

詳細設定

「ファイアウォール設定」テーブル

「SPIとDoS 攻撃検出」

本製品の侵入検知機能は、WANポート側で進入方向のトラフィックのアクセスを制限します。SPI起動中は、全ての進入方向のトラフィックがブロックされます。

初期値：無効

「WANからPingに反応しない」

本製品のWANポートにおいて、ネットワークからのPingを拒否します。

初期値：無効

「DoS攻撃通知メール設定」テーブル

ハッキング（不正アクセス）と思われるパケットが本製品に進入しようとしたとき、管理者へメールで通知します。

「メールアドレス」

管理者のメールアドレスを入力します。

「SMTPサーバアドレス」

管理者のSMTPサーバアドレスを入力します。

「ユーザ名」

管理者のユーザ名を入力します。

「パスワード」

管理者のユーザパスワードを入力します。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。
画面が切り替わり、設定変更が完了します。
設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

4 NAT設定

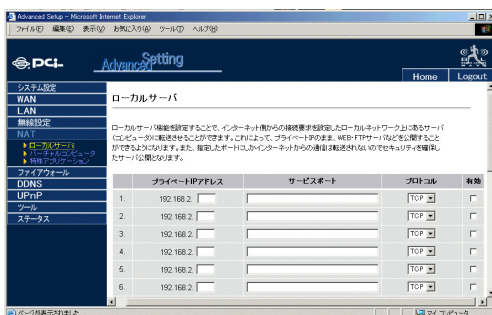
■NAT機能

ネットワークアドレス変換(NAT)社内のみで使用可能なプライベートIPアドレスを、インターネットに使用できるグローバルIPアドレスに変換する技術です。本製品が一つ、または複数のグローバルIPアドレスを変換することで、複数のユーザがLANからインターネットへアクセス可能になります。この機能を拡張して、特定のインターネットからの要求をローカルネットワークにあるコンピュータに転送したり、特定のコンピュータをインターネットに直接公開した状態に設定することができます。

■ローカルサーバ

ローカルサーバ機能とは、LAN側に接続したコンピュータ上で動作しているサーバ(アプリケーション)に外部のユーザがアクセスできる機能です。ローカルサーバ機能では、TCP/UDPポート別に転送先のLAN側コンピュータのローカルIPアドレスを設定します。ユーザから見れば、全く別のサーバにアクセスしているように見えます。

ローカルサーバの設定を行うには、本製品の設定画面の左側にある「NAT」の「ローカルサーバ」をクリックします。



「プライベートIPアドレス」

インターネット側からのアクセスを転送する(インターネットに公開する)LAN側のコンピュータのIPアドレスを入力します。入力範囲:「1~254」

「サービスポート」

インターネット側からアクセスさせるサーバ(アプリケーション)で使用するポート番号を入力します。例えば、HTTP:80、Telnet:23、POP3:110 となります。

「プロトコル」

インターネット側からアクセスさせるサーバ（アプリケーション）で使用するプロトコルです。TCP、UDP、あるいは両方を指定できます。

「有効」

チェックマークを入れて行った設定を有効にします。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。画面が切り替わり、設定変更が完了します。設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■バーチャルコンピュータ

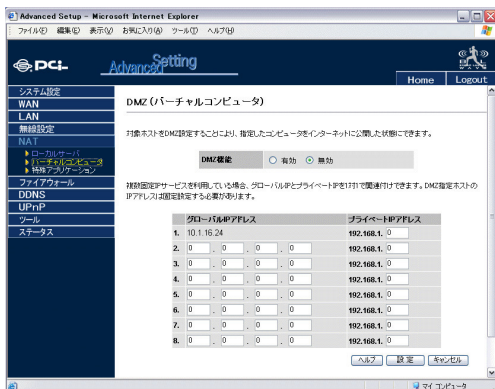
ファイアウォールが設けられたときは、特定のインターネット・アプリケーションが正常に作動しないことがあります。その場合は、バーチャルコンピュータ（DMZ（Demilitarized Zone）とよばれる機能）を使用することができます。バーチャルコンピュータを設定すると、インターネットからの本製品WAN側ポートのグローバルIPアドレスへ送られてくる不明なパケットをすべて設定したバーチャルコンピュータに転送させることができます。これにより、設定したローカルネットワーク側のコンピュータがインターネットに直接接続しているかのような環境を用意することができます。



注意

バーチャルコンピュータ機能を有効にすると、バーチャルコンピュータに設定したコンピュータに対してファイアウォール機能が無効な状態になります。予め対象となるコンピュータ本体のセキュリティ設定を十分に行った上でご利用になるか、必要時以外はこの機能を無効しておくことを推奨します。

バーチャルコンピュータの設定を行うには、設定画面の左側にある「NAT」の「バーチャルコンピュータ」をクリックします。



「DMZ機能」

本製品のバーチャルコンピュータ機能の動作を選択します。

「グローバルIPアドレス」

DMZホストのIPアドレスを入力します

「プライベートIPアドレス」

バーチャルコンピュータに設定するクライアントコンピュータのIPアドレスを入力します。

入力範囲：「1～254」



注意

- ・DMZにクライアントを追加することは、ネットワーク自体を様々な危険にさらすこととなりますので、この設定は絶対必要な場合以外のご使用はお避けください。
- ・2番目以降のエントリを登録するには、複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるインターネット接続サービスを利用する必要があります。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

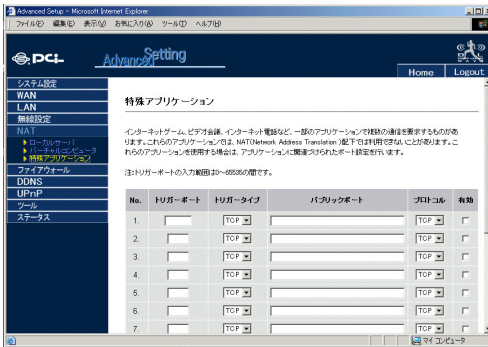
画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■ 特殊アプリケーション

オンラインゲーム、ビデオ会議、インターネット電話など、一部のアプリケーションで複数接続を要求するものがあります。このようなアプリケーションは、NAT (Network Address Translation) が有効な時に使用できなくなります。これらのアプリケーションを使用する場合は、以下の設定画面で利用可能なポートの追加を行います。

特殊アプリケーションの設定を行うには、設定画面の左側にある「NAT」の「特殊アプリケーション」をクリックします。



「トリガーポート」

アプリケーションに関連付けられたポートを指定します。

「トリガータイプ」

TCPまたはUDPのプロトコルを選択します。

「パブリックポート」

アプリケーションに使用されるポート番号を入力します。

7、11、57のようにポートをカンマで区切ってポート番号を指定するか、72-96 のようにハイフンで範囲を指定するか、あるいは合わせて7、11、57、72-96のように指定します。

「プロトコル」

TCPまたはUDPのプロトコルを選択します。

「有効」

チェックマークを入れて行った設定を有効にします。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

📌 メモ

設定テーブルの一番下にある主要アプリケーションを設定し、各項目を一括で設定することができます。特殊アプリケーションの設定例は、62ページの「6.2ネットワークゲームしたい」をご参照ください。

5 Dynamic DNS

本製品はwww.dyndns.org により提供されているDynamic DNS サービスに対応しています。

Dynamic DNSは、ドメイン名とコンピュータまたはサーバを対応させるシステムです。この機能を使用すると、IPアドレスが変わった場合にその変更履歴から自動でIPアドレスを追跡することができます。

本製品を利用してWEBサーバなどを公開する際、ユーザがドメイン名を指定することで公開サービスにアクセスすることができます。つまり本製品がインターネットへ接続するたびに取得するIPアドレスが異なっても自動的にIPアドレスの更新をDDNSサーバに対して行うので、ユーザは常に同じドメイン名でアクセスすることができます。サービスの詳細は、<http://www.dyndns.org/> をご覧ください。



注意

この機能を利用するには、事前に<http://www.dyndns.org/> にアクセスしてドメインの登録が必要となります。

7

詳細設定

Dynamic DNSの設定を行うには、設定画面の左側にある「DDNS」をクリックします。



「Dynamic DNS機能」

有効・無効のオプションからDDNS機能の動作を選択します。工場出荷時では、無効になっています。

「DDNSサービス」

DDNSサービスを提供するプロバイダ名です。本製品はwww.dyndns.org により提供されているDynamic DNS サービスに対応しています

「ホスト名」

dyndns.org に登録したドメイン名を入力します。
入力内容は、半角英数字で最大50文字まで登録できます。

「ユーザ名」

dyndns.org に登録したユーザ名を入力します。
入力内容は、半角英数字で最大50文字まで登録できます。

「パスワード」

dyndns.org に登録したパスワードを入力します。
入力内容は、半角英数字で最大50文字まで登録できます。

「Mail Exchanger」

取得したドメイン (xxx.dyndns.org) 宛のメールを転送させたい場合は、転送先メールサーバのホスト名を入力します。通常、必要がない場合は空欄にしてください。

「BackupMX」

「Mail Exchanger」が入力されている場合、有効にすると「Mail Exchanger」に登録したホストをバックアップ用のメールサーバとして設定します。通常、必要がない場合は無効にしてください。

「ワイルドカード」

有効にすると取得しているホスト名のサブドメインにワイルドカードの使用が可能になります。
www.planex.dyndns.orgやmember.planex.dyndns.orgなど、何かを指定してもplanex.dyndns.orgに自動的に解決されるようになります。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。
画面が切り替わり、設定変更が完了します。
設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

※BLW-04EMが取得したWAN側IPアドレスが変更されると、自動的にDynDNSに登録されているIPアドレスをBLW-04EMが更新を行います。

取得しているIPアドレスが変わらない場合は自動的に更新作業は行いません。その場合30日以上IPが更新されないとDynDNSからIPアドレスを更新するよう促すメールが届きますので、その場合は設定画面から「Dynamic DNS」をクリックしていただき「設定」のボタンをクリックしてください。IPが変更されていないことで更新されますので、そのまま登録したドメイン名の利用を続けることができます。

7

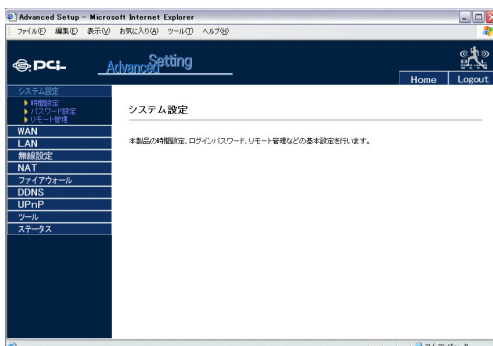
詳細設定

6 システム設定

本製品のタイムゾーン、管理者パスワードおよびリモート管理設定を行います。システム設定は本製品にアクセスするための条件などを設定します。不要な変更を行うと本製品にアクセスできなくなる場合がありますので、十分注意して作業を行ってください。

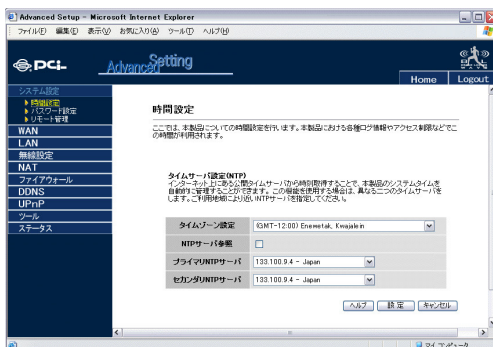
各自の変更内容は項目を選択後、「設定」ボタンをクリックすることで反映されますので、それぞれ確認しながら作業を進めてください。

本製品の設定画面の左側にあるメニューから「システム設定」をクリックします。



■時間設定

「システム設定」の「時間設定」をクリック、各項目の設定を行います。



「タイムゾーン設定」

プルダウンメニューより自分のタイムゾーンを選択します。

「NTPサーバ参照」

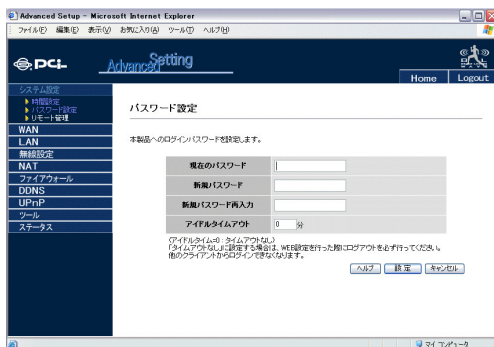
チェックマークをいれて有効にすると、本製品のシステムタイムを自動的に管理することができます。

「プライマリNTPサーバ」、「セカンダリNTPサーバ」

「NTPサーバ参照」機能を使用する場合、異なる2つのタイムサーバを設定します。ご利用地域により近いNTPサーバを指定してください。

■パスワード設定

「システム設定」の「パスワード設定」をクリックします。



本製品の管理者パスワードを設定します。WEB設定画面にログインするためのパスワードです。デフォルトではパスワードは「password」となっていますが、安全性のため必ずデフォルトの設定を変更してください。

入力範囲：3～12の英数半角文字、大文字・小文字は区別されません。

「現在のパスワード」

初めてパスワード設定を行う場合はデフォルトのパスワードです。

「新規パスワード」

新しいパスワードを入力します。パスワードは3～12桁の半角英文字と数字が入力可能で、大文字・小文字が区別されません。

「新規パスワード再入力」

確認のため、パスワードを再入力します。



注意

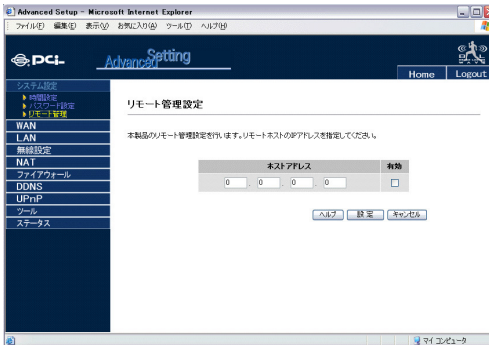
パスワードを忘れた場合は、リセットボタンを押して本製品を工場出荷時の設定に戻してから設定画面にアクセスが可能になります。工場出荷時の設定でパスワードは「password」となっています。

「アイドルタイムアウト」

待機状態中にWEB設定画面への接続が維持される最大時間です。設定された期間が過ぎると自動的にログアウトが行われ、WEB設定画面に入るため再度ログインをしなければなりません。

■ リモート管理設定

「システム設定」の「リモート管理」をクリックします。



本製品のWEB設定画面に、インターネットからログインするためのリモート管理設定を行います。

「ホストアドレス」

インターネットからログインを許可するリモートホストのIPアドレスを指定します。

「有効」

チェックマークを入れて行った設定を有効にします。

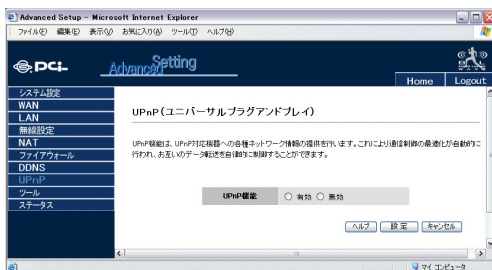
インターネット側から本製品のWEB設定画面にアクセスするときは、ブラウザのアドレスを入力する欄に次のように入力してください。

http://WAN側IPアドレス : 8080/

7 UPnP (ユニバーサルプラグアンドプレイ) の設定

UPnP機能は、UPnP対応機器への各種ネットワーク情報の提供を行います。これにより通信制御の最適化が自動的に行われ、お互いのデータ転送を自律的に制御することができます。UPnP技術を使用すると、ネットワークに接続されたコンピュータ、周辺機器や無線機器などがお互いに認識してデータ転送を制御します。

設定画面の左側にあるメニューから「UPnP」をクリックします。



「UPnP機能」

「有効」にするとUPnP機能が有効になります。ご利用になるコンピュータがUPnPに対応していない場合やUPnP機能を使用しない構成を意図する場合に「無効」を選択します。

デフォルト：無効

UPnP機能を有効にするだけで、ネットワークに接続している各種機器が自動的に次の動作を行います。

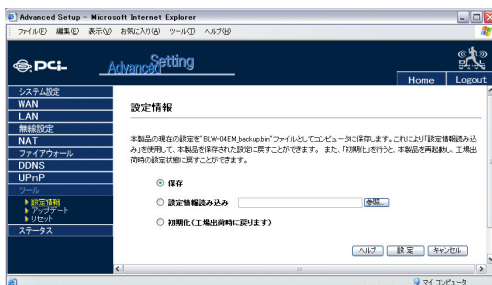
- ・ネットワークへの動的加入
- ・IPアドレスの取得
- ・自分の機能を通知し、他の機器の存在を確認してこれらの機能を認識

8 ツール設定

「ツール」メニューでは、本製品の現在の設定情報の保存、前回保存した設定の読み込み、工場出荷時の設定へのリセット、またファームウェアのアップデートと再起動が行えます。

■ 設定情報

設定画面の左側にあるメニューから「ツール」の「設定情報」をクリックします。



「保存」

BLW-04EMの現在の設定が「BLW-04EM_backup.bin」（バックアップファイル）としてコンピュータに保存されます。この項目を選択してから、「設定」ボタンをクリックすることで保存が行われます。

「設定情報読み込み」

この項目を選択し、バックアップファイルを指定してから「設定」ボタンをクリックすると、BLW-04EMをバックアップファイルに保存された設定に戻すことができます。「設定」ボタンをクリックすることで情報の読み込みが行われます。

「初期化」（工場出荷時の設定に戻ります）

本製品を再起動し、全ての設定を工場出荷時のものに戻すことができます。この項目を選択してから、「設定」ボタンをクリックすることで初期化が行われます。



注意

必要に応じて設定情報を控えておいてから初期化を行うことを推奨します。

■ファームウェアアップグレード

本製品のファームウェアのアップグレードを行います。

ファームウェアとは？

本製品を制御するプログラムに当たるものです。

機能追加・使用変更などを施した最新のファームウェアが弊社のホームページからダウンロードできます。

http://www.planex.co.jp/support/download/driver_routr.shtml

ただし、特に使用していて不具合がないようでしたらファームウェアを最新版にする必要はありません。

仕様変更などでお客様に必要な項目がある場合に限りアップデートするようにしてください。不用意にアップデート作業を行うと、本製品を破損する原因ともなりかねませんので慎重を心がけてください。



注意

アップデート作業を行う前に、ダウンロードファイルに添付されている「*readme.txt*」など解説書をご確認ください。

アップデート作業中に通信が途切れたりすると本製品が破損する恐れがあります。作業は有線LANで接続しているコンピュータから行うようにしてください。

7

詳細設定

●アップデート手順

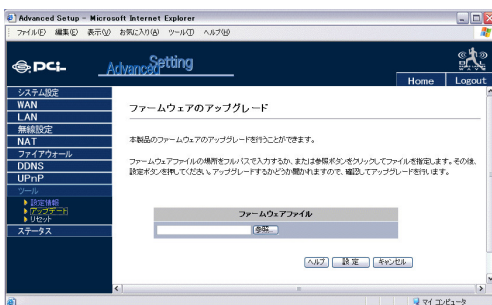
1. 事前に弊社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードし、ハードディスクに保存します。

http://www.planex.co.jp/support/download/driver_routr.shtml

2. 「ステータス表示」画面で、WAN側がインターネット接続されていないか確認します。

接続されている場合は、切断処理を行い、WAN側ポートからケーブルを外してください。

3. 「ツール」の「アップデート」をクリックします。
下記の画面が表示されますので、各項目の設定を行います。



「参照」ボタンをクリックし、ダウンロードしたファイルを選択して「設定」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてアップグレードを続行します。
ファームウェアアップグレードが終了したら、ステータス画面でアップグレードが正常に行われたか確認します。「ファームウェアバージョンの確認方法」へお進みください。

●ファームウェアバージョンの確認方法

1. WEBブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押して、BLW-04EMの設定画面にアクセスします。本製品のトップページが表示され、「Advanced Setting」詳細設定をクリックします。
2. 左側にあるメニューの「ステータス」をクリックしてください。



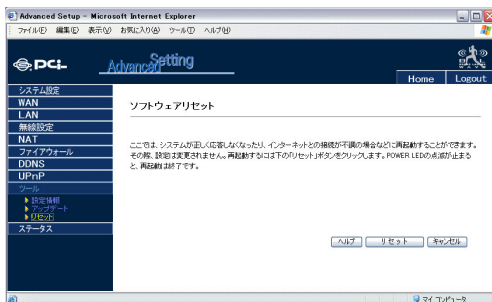
3. 「システム情報」の「ファームウェアバージョン」に記載されている数字が、現在のBLW-04EMのファームウェアのバージョンになります。

■ソフトウェアリセット

システムが不安定になったり、機能が正しく動作しなくなったときに本製品をリセットすることができます。

* リセットを行った際、設定は変更されません。

設定画面の左側にある「ツール」の「リセット」をクリックします。



表示された画面で「リセット」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。電源のランプ（PWR LED）の点滅が終わると再起動が完了したことになります。



注意

本製品の再起動に多少時間がかかる場合があります。再起動中に本製品の電源を切らないでください。

本体背面の「RESET」リセットボタンを押してリセットを行った場合、本製品は電源リセットと判断します。リセットボタンを5秒以上押し続けると、全てのランプが点灯し、工場出荷時の設定に戻ります。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

9 ステータス

「ステータス」画面では、本製品のインターネット接続状態、ファームウェア、ハードウェアのバージョン、ネットワークへの不正アクセス状況、DHCPクライアントの接続状況などを表示します。

設定画面の左側にある「ステータス」をクリックします。



ステータス画面では以下の情報を監視します。

「インターネット接続」

WAN接続状況、WAN接続タイプを表示します

「ローカルネットワーク」

システムIP設定、DHCPサーバ、ファイアウォール、UPnP、無線接続の情報を表示します

「システム情報」

接続しているクライアント数、ファームウェアバージョン、各メディアインターフェースの物理的MACアドレス、ハードウェアバージョン、シリアル番号を表示

「セキュリティログ」

ネットワークへの不正アクセス履歴を表示します

- 「保存」 : このボタンをクリックするとセキュリティログが保存されます
- 「クリア」 : このボタンをクリックするとアクセスログが消去されます
- 「更新」 : このボタンをクリックすると画面が更新されます

「DHCPクライアントログ」

ネットワーク上の全てのDHCPクライアントの情報を表示します。

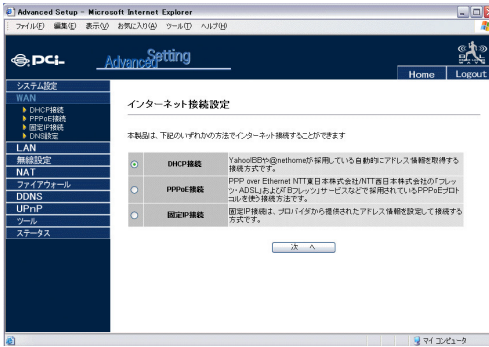
7

詳細設定

10 WAN設定

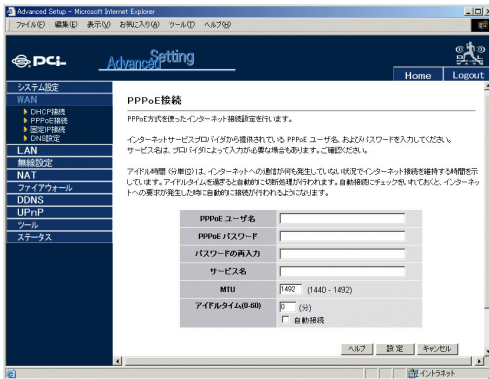
本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、詳細設定画面にてインターネットに関する設定を行います。インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」および第3章「コンピュータの設定」を済ませておいてください。

WAN設定を行うには、設定画面の左側にある「WAN」をクリックします。「インターネット接続設定」画面が表示されますのでオプション項目からご使用の接続方法を選択します。



■ 「PPPoE接続」

「PPPoE接続」オプションを選択し「次へ」をクリックします。下記の画面が表示されますのでサービスプロバイダに提供された項目を入力します。



7

詳細設定

「PPPoEユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。大文字・小文字は区別されますので正確に入力してください。

例 : PCi123456@Planex.co.jp

「PPPoEパスワード」

プロバイダに提供されたパスワードを入力します。大文字・小文字は区別されますので正確に入力してください。また、設定後は入力桁数からのパスワード推測を回避するために無条件に[*（アスタリスク）] 16桁表示でマスクされます。

例 : pcIBIW04g

「パスワードの再入力」

確認のためパスワードを再入力してください。

「サービス名」

通常は、サービス名はオプションですが、プロバイダによって入力が必要な場合もあります。

「MTU」 (Maximum Transmission Unit)

最大のパケットサイズを示す値です。変更の必要がなければデフォルトのままにしてください。

「アイドルタイム」

待機状態中に、いわばユーザが何の操作もしていないときに、インターネット接続が維持される最大時間です。設定された時間が過ぎると接続が自動的に切断されます。

設定範囲 : 1～60分

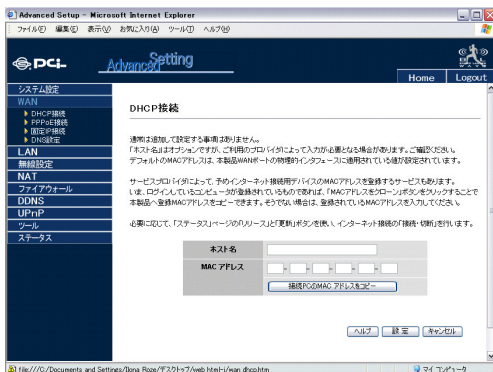
「自動接続」

チェックを入れておくと、インターネットへの要求が発生したときに自動的に接続が行われるようになります。

各種入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。

■ 「DHCP接続」

「DHCP接続」オプションを選択し「次へ」をクリックします。下記の画面が表示されますのでプロバイダに提供された項目を入力します。



「ホスト名」

プロバイダにホスト名が割り当てられている場合は入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「MACアドレス」

プロバイダへ使用パソコンのMACアドレスを登録している場合に入力します。

各種入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。



注意

- ・接続が成功しないときは、ホスト名、ドメイン名などの設定に間違いがないか確かめてください。
- ・また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・「ステータス表示」の詳細については「7-9.ステータス表示」を参照してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

■ 「固定IP接続」

「固定IP接続」オプションを選択し「次へ」をクリックします。下記の画面が表示されますのでプロバイダに提供された項目を入力します。



「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「デフォルトゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

各種入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。



注意

- ・接続が成功しないときは、IPアドレス、ホスト名などの設定に間違いがないか確かめてください。
- ・また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・「ステータス表示」の詳細については第7章「7.ステータス表示」を参照してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

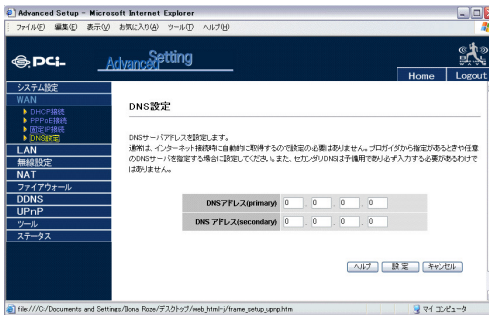
■ 「DNS設定」

DNSはインターネット上の数字の羅列で表されているIPアドレスをドメイン名(例: www.planex.co.jp) に置き換えるシステムです。

通常は、インターネット接続時に自動的にIPアドレスを取得するので設定の必要はありません。

「固定IP接続」の場合は、必ず設定する必要があります。また、プロバイダから指定があるときや任意のDNSサーバを指定する場合に設定してください。

設定画面の左側にあるWANの「DNS設定」をクリックします。下記の画面が表示されますので各項目を入力します。



「DNSアドレス (プライマリ)」

プロバイダに指定されたアドレスを入力します。

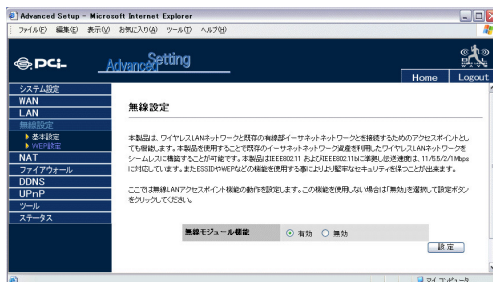
「DNSアドレス (セカンダリ)」

セカンダリDNSアドレスは予備用であり、必ずしも入力する必要はありません。

各種入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。

11 無線設定

本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能(以後、AP)について設定を行います。無線設定を行うには、本製品の設定画面の左側にある「無線設定」をクリックします。



「無線モジュール機能」

無線LANアクセスポイント機能の動作を設定します。この機能を使用しない場合は「無効」を選択して設定ボタンをクリックしてください。アクセスポイント機能を使用する場合は「有効」をクリックします。

■ 基本設定

左側にある「無線設定」の「基本設定」をクリックします。無線LANアクセスポイントの基本動作を設定します。



「ESS-ID」

ワイヤレスLANアクセスポイントを識別する名前になります。

ESS-ID を設定する事により無線LAN グループを作成する事が可能になり、同じIDをもつコンピュータのみ本製品と通信をおこなう事ができます。

出荷時設定では「BLW-04EM」となっていますので、接続するワイヤレスLAN機器のESS-IDを「BLW-04EM」に設定してください。

入力範囲：最大31文字（英数半角）、大文字・小文字が区別されます。

「通信速度」

本製品からのデータ通信速度を設定します。通信速度が低いほど通信距離が長くなります。

「ベーシックレート」

指定されたレートは、本製品のブロードキャスト・マルチキャストおよびマネジメントフレームの転送速度です。（1、2、5.5、11Mbps）と（1、2Mbps）のオプションから選択できます。

「チャンネル」

このチャンネル経由で本製品がクライアントコンピュータとの通信を行います。

1～14まで使用チャンネルを選択できます。

同じ室内に複数APが存在する場合、同一チャンネルを使用していると通信が正しく行えないことがあります。他のAPとチャンネルをずらすことで混信を回避できます。

初期値：自動

「ESSIDを隠す」

ESS-IDを隠す（公開しない）ことにより、他のワイヤレスLANクライアントがサイトサーベイを行っても本製品ワイヤレスLANアクセスポイントを検知できません。言い換えるとESS-IDを予め把握している関係者だけ通信できることとなりセキュリティアップできます。

初期値：無効

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

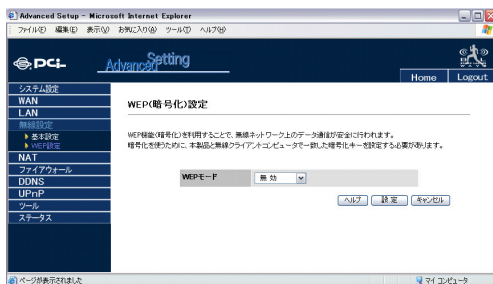
画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

■WEP設定

無線ネットワーク上で安全にデータをやり取りするためにWEP（Wired Equivalent Privacy）機能を有効にすることを推奨します。暗号化には、本製品と全てのクライアントコンピュータに共通の暗号化/復号化キー「鍵」を使います。標準の64-bitと強度の高い128-bitの暗号化を選択することができます。

WEP暗号化設定を行うには、本製品の設定画面の左側にある「無線設定」の「WEP設定」をクリックします。



7

「WEPモード」

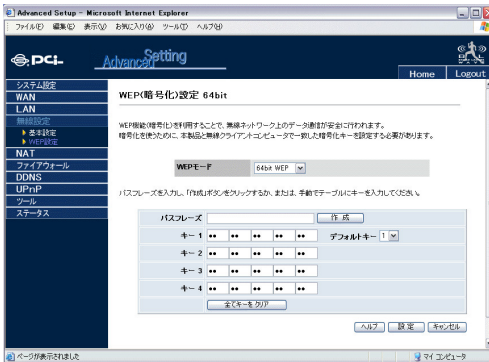
暗号化のモードを設定します。「無効」、「64-bit WEP」と「128-bit WEP」から選択できます。

初期値：無効

詳細設定

◎WEPモードが「64-bit WEP」の場合

WEPモードを「64-bit WEP」に設定すると、次の画面が表示されます。



暗号化キーは自動的に作成するか、あるいは手動でキーを入力します。

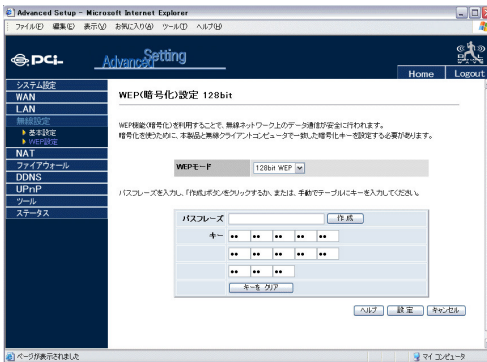
「パスワード」

自動的に64-bitの暗号化を設定するにはパスワードを入力し「作成」ボタンをクリックします。4つの暗号化キーが作成されますので、「デフォルトキー」のプルダウンリストから1つのキーを選択します。キーはデフォルトのままにしておくことも可能です。

表示されてある内容を確認し、「設定」ボタンをクリックします。

◎WEPモードは「128-bit WEP」の場合

WEPモードを「128-bit WEP」に設定すると次の画面が表示されます。



暗号化キーは自動的に作成するか、あるいは手動でキーを入力します。

「パスワード」

自動的に128-bitの暗号化を設定するにはパスワードを入力し「作成」ボタンをクリックします。1つの暗号化キーが作成されます。

表示されてある内容を確認し、「設定」ボタンをクリックします。

ネットワークQ&A

1 ブロードバンドルータの色々な「？」について

インターネットの急速な普及により、ブロードバンドルータ（以下、BBルータ）を使用する場面が増えてきました。特に多く寄せられる、LAN全般や弊社製品を使用する際にぶつかる疑問点についていくつかまとめてみました。ネットワークはよく解らない…という方は是非ご一読ください。弊社製品に対する理解を深められることでしょう。

Q BBルータの設定は接続するコンピュータに対して全部で行うのですか？

A いいえ

複数台接続している環境であっても、いずれか1台のコンピュータからBBルータの設定を行うだけで完了します。

補足

設定作業を行った1台でBBルータを介してインターネットにアクセスできるようになっていれば、その時点でBBルータの設定は完了したことになります。他のコンピュータから同じように設定を行う必要はありません。

例えば、2台のコンピュータのうち、1台はインターネットにアクセスできるが、もう1台はアクセスできないという場合は、BBルータではなくコンピュータ側に問題があることが考えられます。

Q インターネットに接続できないのに、どうやって設定画面にアクセスするんですか？

A インターネットへの接続と関係なく、設定画面にアクセスできます。

設定画面はBBルータの中にあります。BBルータの中に設定用のホームページが存在しアクセスすることで、BBルータの設定を行っているのです。ですから、BBルータがインターネット（モデム）につながっていなくてもコンピュータは設定画面にアクセスすることができるのです。

Q 「ブラウザ」ってなんですか？

A インターネット上のホームページ等を見るためのソフトです。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープ」等が代表的なソフトになります。

補足

BBルータのマニュアルでは「インターネットエクスプローラ」の画面が使われているので「ネットスケープではどうやって設定するんですか？」という質問も寄せられますが、例えば「yahoo」のホームページが「インターネットエクスプローラ」でも「ネットスケープ」でも見ることができるよう、BBルータの設定画面も問題なく「ネットスケープ」で表示することができます。

Q IPアドレスってなんですか？

A TCP/IPプロトコルを使ったネットワークにおいて、コンピュータごとに割り当てられる個別の数字のことを言います。

数字がちょっと変わるだけでアクセスできなくなったりする厄介なイメージがあると思いますが、簡単に考えるなら「学校のクラスと出席番号」に置き換えて考えると判り易いかと思います。

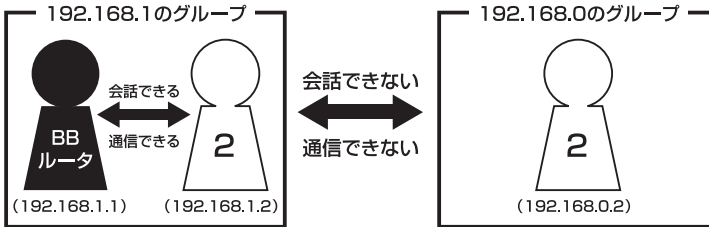
例えばA君とB君とC君がいて、A君とB君は「1-1」組でC君が「1-2」組の場合、A君とB君は同じ教室なのでいつでも話をすることができますが、C君は教室が別なのでA君達とは会えません。IPアドレスもほとんどそれと同じような理屈になっています。

実際のIPアドレスで例えるなら、BBルータのIPアドレスは出荷時には「192.168.1.1」というIPアドレスが設定されています。これは、BBルータ君は「192.168.1」組の出席番号「1」番という意味になります。このBBルータ君と話をするにはコンピュータも「192.168.1」組に入らないと教室が別になるので話ができません。

BBルータにアクセスするコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.2」であれば「192.168.1」組の出席番号「2」番になるので、そのコンピュータはBBルータ君と話をすることができます。

もしコンピュータのIPアドレスが「192.168.0.2」だと、そのコンピュータは「192.168.0」組になるためBBルータ君とは教室が別になり、BBルータ君と話をすることができません。

つまり、BBルータにアクセスするにはコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.**」という数字でなくてはならないのです。



上記の説明で「出席番号が同じになるとどうなるの?」という疑問を持った方もいると思います。

もし同じ出席番号の人が同じ教室に2人いたら混乱しますね? ネットワークもそれと同じで、IPアドレスは重複してはいけなくなっています。

同じ番号のコンピュータが存在した場合、「その番号を使っている人が他にいますよ」という内容の警告メッセージがコンピュータ上に表示されます。

ここまで読んでいただいた方はもうお判りだと思いますが、IPアドレス「AA.BB.CC.DD」の3つ目(CC)までがネットワークのグループを表していて、最後の数字(DD)がコンピュータごとに設定される個別の数字ということになります。

補足

厳密にはもっと色々なルールがあるのですが、BBルータの設定画面にアクセスするには少なくとも上記レベルのルールが判っていれば、トラブルに遭った時の対処や問題の切り分けに役立ちます。

2 設定画面

ここではBBルータの設定画面にうまくアクセスできない場合の主な確認点及び確認方法をまとめました。ご利用のコンピュータに該当する項目がないかチェックしてください。

Q 設定画面にアクセスできないのですが？

A LAN ランプ (LED)、IPアドレス、プロキシ、セキュリティソフトそれぞれの項目が正しく設定されていないとアクセスできません。もう一度設定を確認してみてください。
また、BBルータとの通信が正常に行われていない可能性もあります。これはpingというコマンドを使って確認することができます。

確認!

LANランプ

LANランプ (LED) は点灯していますか？

コンピュータが接続されて正常に通信ができる状態になると「LINK」と言われるランプが点灯します。

BBルータには「LAN」「Link/Act」「LAN LINK」等の名称で呼ばれるランプがついていますので、そのランプが点灯しているか確認してください。(詳しくはマニュアル第1章 4の「各部の名称」をご覧ください)。

・点灯しない場合

ランプが点灯していない場合、BBルータとコンピュータは通信できる状態になっていませんので、設定画面にもアクセスできません。

いくつかの原因は考えられますが、まずはケーブルを交換してみてください。

正常にランプが点灯しているポートで使用中の、他のケーブルを使って接続してみてください。

ケーブル交換の後、正常にランプが点灯するようであれば、交換前に使用していたケーブルに問題がある(断線やクロスケーブルなど)ということになります。

IPアドレスが正しく取得できていますか？

アクセスできない場合は、取得しているIPアドレスを確認してください。BBルータには「192.168.1.1」というIPアドレスが出荷時に設定されており、BBルータにアクセスするにはコンピュータが「192.168.1.**」というIPアドレスを取得する必要があります(最後の「**」には任意の数字が入ります)。異なるIPアドレス(210.119.**.**等)を取得している場合はBBルータの設定画面にはアクセスできません。

・確認方法

主なOSでの確認方法は以下のようになりますので、取得しているIPアドレスの確認を行ってください。

Windows 95/98/MEの場合：

1. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

Macintoshの場合：

1. アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を開いてください。
2. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

・まったく違うIPアドレスを取得している場合（Windowsのみ）

確認したIPアドレスが「192.168.1.**」ではなく、まったく違うIPアドレスを取得している場合、以下の方法で取得しているIPアドレスを開放して、再度IPアドレスを取得しなおすことができます。

Windows 95/98/MEの場合：

1. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更→「すべて開放」ボタンをクリックしてください。
3. 「IPアドレス」が「0.0.0.0」になったのを確認してから「すべて書き換え」ボタンをクリックしてください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば正しく取得できたこととなります（**には任意の数字が入ります）。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG /RELEASE」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 再度「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば、正しく取得できたこととなります（**には任意の数字が入ります）。

BBルータと正常に通信していますか？

- ・ 接続確認方法（Windowsのみ）

BBルータと通信できているかどうかは「ping」というコマンドで確認することができます。

Windows 95/98/98SEの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。
「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows MEの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を選択、「コマンドプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

・応答が「Request Timed Out」になる

「ping 192.168.1.1」と実行した時「Request Timed Out」と表示される場合は、IPアドレスが正しく取得できていないか、コンピュータのLANアダプタが正常に動作していない可能性が考えられます。

1. IPアドレスが正しく取得できているか確認してください。「IPアドレスが正しく取得できているか」に確認方法が記載されています。
2. LANアダプタが正常に動作しているか確認してください。確認方法はモデムに直接接続してインターネットにアクセスできれば正常です。



ブラウザのプロキシ (PROXY) 設定

不要な設定をしていませんか？

ブラウザのプロキシになんらかの設定が行われていると、アドレスに指定された所に接続する前に、プロキシで設定した所に接続しようとしてしまうため、設定画面にアクセスできない場合があります。その場合は以下のような手順でプロキシの設定を解除してください。

インターネットエクスプローラの場合 (5.0以降) :

1. メニューの「ツール」→「インターネットオプション」を選んでください。
2. 「接続」タブをクリック→「LANの設定」ボタンをクリックしてください。
3. 「自動設定」と「プロキシサーバ」のチェックボックスでチェックされている項目がありましたら、全ての項目のチェックを外してください。
4. 「OK」ボタンをクリック→「ローカルエリアネットワークの設定」ウインドウを閉じてください。
5. 再度「OK」ボタンをクリック→「インターネットオプション」ウインドウを閉じてください。
6. 一度インターネットエクスプローラを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

ネットスケープの場合：

- 1.メニューの「編集」→「設定」を選択してください。
- 2.「詳細」→「プロキシ」を選択、「インターネットに直接接続する」をチェックしてください。
- 3.「OK」ボタンをクリック→ウインドウを閉じてください。
- 4.一度ネットスケープを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

セキュリティ関連ソフトの影響

ウイルスバスターやノートンアンチウイルス等、最近のウイルスチェックソフトには簡易ファイアウォールという機能を搭載した物が増えています。

ファイアウォールはアクセス許可をしていないIPアドレスからのパケット(通信)を遮断したりする機能です。

有効になっていると稀にBBルータとの接続時にファイアウォール機能が働いて設定画面がうまく表示されない事や、設定内容を保存するとエラーになること等があります。

ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティソフトをご使用になられている場合は、それらのソフトを停止させてみてください。停止方法が判らない場合は、各ソフトウエアのマニュアルをご覧ください。

3 インターネットにアクセスできない

ここではBBルータの設定を行ってもインターネットへのアクセスができない場合の、主な確認点及び確認方法をまとめました。

接続方法別にまとめてありますので該当する項目がないかチェックしてください。設定画面にアクセスができない場合は、122ページ「設定画面にアクセスできないのですが?」をご覧ください。

共通項目 事前確認編

どの接続方法にも共通する、最初に確認すべき点です。

Q 設定画面ではすべて正しく設定できたのですが、なぜインターネットにアクセスできないのでしょうか？

A BBルータが正しく接続されていないと通信が行われないので、インターネットにはアクセスできません。以下を確認してください。



WANランプ

WANランプ (LED) は点灯していますか？

BBルータとモデムを接続して正常に通信ができる状態になると、BBルータの「WAN」のランプが点灯します。

・点灯しない場合

「WAN」のランプが点灯しない場合は、モデムと正常に接続していないことを表しますので、その状態ではインターネットに接続することができません。

ポートにケーブルのコネクタが正しく挿さっているか再度確認してください。それでも、点灯しない場合は使用しているLANケーブルを変えてみる必要があります。

接続設定フレッツ編

ここではNTT提供のフレッツ・ADSL、Bフレッツ等のようなフレッツ接続ツールを利用してインターネットにアクセスする場合の、インターネット接続に関する主な確認点をまとめました。

接続ツール等を使わない場合は133ページ「接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編」をご覧ください。

Q インターネットへの接続や切断はどうするの？

A BBルータが回線の状態を検知し、自動的に接続・切断を行います。

NTT「フレッツ」を利用されているほとんどの方が、NTTのフレッツ接続ツールを使ってインターネットに接続し、アクセスをやめる時は切断処理をしていたと思いますが、「BBルータを使う場合はどうやって接続するの？」という疑問をもたれる方もいると思います。

BBルータ使用の場合、コンピュータがインターネットへ接続しようとする時、そのコンピュータはBBルータに接続のための信号を送信します。

BBルータはその信号を受信すると、回線が切断状態の時には自動的に接続を開始します。そして、一定時間インターネットへの接続が発生しない場合、自動的に切断を行うようになっています。

つまり、ユーザーは接続や切断を意識することなく、インターネットへアクセスできるのです。



注意

上記の動作は出荷時の設定で使用した場合になります。設定内容によっては上記のような動作にならない場合もありますのでご注意ください。

Q 今までフレッツ接続ツールを使っていたのですが、BBルータを設置した場合にインターネット接続する時の確認点はなんですか？

A ユーザID、パスワード、PPPoE設定・接続、接続ツールなどです。

ユーザID、パスワード

ユーザIDとパスワードに間違いはないですか？

フレッツ接続の場合、接続のためにユーザID（ログインID）とパスワード（ログインパスワード）をBBルータに設定しますが、その入力を間違えると正常に接続できません。

入力ミスは意外と多く、再度入力し直すと接続できることが度々ありますので、入力した内容に間違いがないか、今一度確認してください。

「1（いち）」⇔「l（エル）」、「0（ゼロ）」⇔「O（オー）」の間違いなど。

フレッツの場合は「@」以降の入力が必須です

フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、ユーザID（ログインID）やパスワード（ログインパスワード）の入力が必須です。

特に注意すべき点として、ユーザIDの設定ではご利用になるプロバイダごとに、ユーザIDの後ろに「@****.ne.jp」というような設定入力が必要です。

プロバイダからの接続資料にはユーザIDの表記で「@」以降の部分が記載されていない場合もあります。

その場合はNTTからのフレッツ接続資料の中に、プロバイダ別のドメイン名リストがありますので、そちらで「@」以降の表記をご確認ください。

PPPoE接続の結果を確認してください。

BBルータにより確認方法が異なってくるため詳細は割愛しますが、PPPoEの接続設定の後には接続確認が大抵の場合行われます。

「接続診断」という機能を持ったBBルータの場合は、その機能を使って接続結果が良好かどうかを確認してください。

設定の最後で自動的に接続し、その結果を画面上に表示するタイプのBBルータの場合、接続に成功したというメッセージが表示されるか確認してください。

・接続テストの結果、接続できなかったという場合

「PADI-TIMEOUT」や「サーバからの応答 NG」等になる時は、PPPoE設定の「ユーザID」の設定が正しくても接続できないことがあります。

その場合、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態です30～60分ほどそのままにしておいてください。

30～60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

フレッツ接続ツール

フレッツ接続ツールは使いません

BBルータを使用する場合は本編冒頭の「インターネットへの接続や切断はどうするの?」にも書きましたように、フレッツ接続ツールは使用しません。

もし現在、BBルータの設定後にフレッツ接続ツールを起動してインターネットへの接続をしている場合は、フレッツ接続ツールは使用せずにブラウザを起動して、インターネットに接続できるか確認してください。

正しく接続設定が行われていれば、フレッツ接続ツールを使用しないで接続できます。

・ PPPoE接続だけど接続ツールを使わない場合の設定は？

ADSL回線でPPPoE接続だが、モデムにコンピュータを接続してインターネットにアクセスする際、接続ツール等を使用しないという場合は、ご利用のモデムにBBルータ機能がついている可能性が考えられます。その場合は「PPPoE接続」ではありませんので、次項の「アッカやイー・アクセスをご利用の場合」を参考に設定を行ってください。

アッカやイー・アクセスをご利用の場合

アッカやイー・アクセスはADSL回線ですが、提供されているモデムにルータ機能がついています。複数のコンピュータで利用する場合は、ハブがあればアクセスできるため本来BBルータは必要ありません。

しかし、どうしてもBBルータを使用したいという場合は、BBルータのIPアドレスを変更することで利用可能になります。

BBルータのIPアドレスは本冊子の冒頭でも触れているように「192.168.1.1」になります。もし、ご利用のモデムも同じく「192.168.1.1」というIPアドレスを持っていて、しかも設定画面にアクセスした時にモデムの設定が行えるようだと、BBルータのWAN側とLAN側が同じようなアドレス（192.168.1.**）になってしまい、BBルータが混乱して正常な動作ができなくなります。

ハブではなくBBルータを使用したい場合はBBルータのLAN側のIPアドレスを、「192.168.2.**」等のようにWAN側のIPとは別のアドレスに変更すれば、接続できるようになります。

接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編

Q ケーブルTVインターネットやYahoo!BBを利用した場合に、インターネット接続する時の確認点はなんですか？

A IPアドレスの取得、ケーブルTVインターネットの場合はケーブルの接続方法にもご注意ください。

IPアドレスの取得

・ケーブルTVやYahoo!BBをご利用の場合

ケーブルTVやYahoo!BBを利用する場合は「通常接続（DHCP接続）」という方式で接続を行います。

各BBルータのマニュアルをご覧くださいと判るかと思いますが、この場合設定らしい設定はほとんど必要ありません。

インターネットに接続するには、BBルータがプロバイダからIPアドレスを取得しなければいけませんので、BBルータのWAN側ポートにIPアドレスが表示されているか確認してください。

確認方法はBBルータによって画面が異なりますので詳細は割愛しますが、「ステータス表示」や「アカウント管理」の画面で確認することができます。

ケーブルの接続

・WAN側ポートにIPアドレスが割り当てられない時

ケーブルTV等を利用したPPPoE以外のインターネット接続方法の場合、BBルータを接続する前まではコンピュータをモデムに接続して利用していることが多いと思います。

ケーブルをモデムから外してそのままBBルータに接続してしまうと、本来BBルータに割り当てられるはずのIPアドレスをコンピュータが持ったままになってしまい、BBルータがモデムからIPアドレスを正しく取得できないことがあります。

その場合はコンピュータを再度モデムに接続しなおしていただき、一度コンピュータを終了させる処理を行ってください。

モデム接続後にコンピュータを終了させれば、通常は取得したIPアドレスは開放されます。コンピュータの電源が切れたらモデムとBBルータを接続し、モデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

・それでも接続できない場合

モデムにコンピュータを接続した後、一旦終了させてからモデムとBBルータを接続し、電源を入れなおしてもインターネットに接続できない場合は、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態でも60分ほどそのままにしておいてください。

モデムを含めた全ての機器の電源を長時間切ることによって、プロバイダ側のサーバが記憶している情報が削除されて、初めて接続した時のような状態で接続することができます。60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

共通項目 最終確認編

どの接続方法にも共通する、最後に確認すべき点です。

Q 事前確認、接続設定と確認して問題がなかったのですが、それでもアクセスできません。ほかに確認点はありますか？

A コンピュータのIPアドレスが自動取得である事と、DNSサーバアドレスの設定を再確認してください。



自動取得

コンピュータのIPアドレスは自動取得になっていますか？

コンピュータのIPアドレスを手動で設定する場合、正しく設定されていないと設定画面にはアクセスできてもインターネットにアクセスできないことがあります。

手動設定の場合の注意点は次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点とは？」を参照していただき、コンピュータのIPアドレスが正しく自動取得になっているか、マニュアルを再度確認してください。



DNSサーバアドレス

IPアドレスでホームページにアクセスしてみてください。

ブラウザのアドレスに「http://210.197.75.205」と入力してEnterキーを押していただき、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。

「http://210.197.75.205」だとアクセスできて「http://www.planex.co.jp」だとアクセスできない場合は、DNSサーバアドレスが正しく設定できていない可能性が考えられます。次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点とは？」を参考に設定を行ってください。

4 その他 よくあるお問い合わせについて

ここでは、多数寄せられる質問について、いくつかまとめてみました。

Q IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？

A IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバアドレスが正しく設定されているか再確認してください。

IPアドレスの基本的なルールは冒頭の「IPアドレスってなんですか？」の中で触れていますが、設定画面にアクセスする場合に必要な最低限の説明だけなので、インターネットに接続する場合の設定については不十分になっています。手動でIPアドレスを設定する場合の注意点は以下のようになります。

IPアドレス：

IPアドレスの設定については120ページ「IPアドレスってなんですか？」をご覧ください。

サブネットマスク：

通常は「255.255.255.0」と指定してください。

デフォルトゲートウェイ：

(MacOSでは「ルータアドレス」と言います)

BBルータのIPアドレスが入ります。出荷時の設定は「192.168.1.1」になります。ここが正しく設定されていないとインターネットには接続できません。

DNSサーバアドレス：

(MacOSでは「ネームサーバアドレス」と言います)

ご利用になっているプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。

BBルータによっては「デフォルトゲートウェイ」と同じIPアドレスで問題ない場合もありますが、判らない場合はプロバイダ指定のDNSサーバアドレスを設定するのが確実です。

ここが正しく設定されていないと「www.planex.co.jp」という名前(ドメイン名)でホームページにアクセスできなくなります。

Q BBルータに接続しているコンピュータ同士の通信ができません。

A pingを打って通信確認ができれば、BBルータの問題ではありません。OS側の設定の問題だと思われます。

インターネットへの接続は問題ないのに、コンピュータ同士のファイル共有等ができないという問い合わせも良く寄せられます。コンピュータ同士のLAN接続について、基本的にBBルータは関与しておりません。

BBルータの通信確認

コンピュータ同士が本当にアクセスできていないのか確認する方法として、106ページ「設定画面にアクセスできないのですが？」の中に、取得しているIPアドレスを確認する方法と、指定のIPアドレスにpingを打つ方法を紹介していますので、そちらを参考にそれぞれのコンピュータが取得しているIPアドレスを確認して、相手のコンピュータに対してpingを打ってみてください。

「Reply from・・・」が帰ってくればコンピュータ同士の接続は問題なくできていることとなりますので、ファイル共有等ができないのはBBルータの問題ではなくOS側の設定の問題ということになります。

OS側の要因

pingの結果が「Request timed out」だったり、pingが通っても接続できない場合に考えられる一つの要因として、ファイヤウォールソフトの存在が挙げられます。ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティのソフトには、簡易ファイヤウォール機能を有している物があります。

使用しているコンピュータにそれらのソフトをインストールしている場合、ファイヤウォールが有効になっていると、たとえ自宅の中の同じネットワーク上のコンピュータであっても、ファイヤウォールから見ると第三者がそのコンピュータにアクセスしているように映るため、アクセスされないように遮断してしまいます。

該当するようなソフトを利用されている場合は、それらのソフトを停止させた状態で再度pingコマンドを打ち、通信状態を確認してみてください。

停止させるとpingが通るような場合は、それらソフトのファイヤウォールに他のコンピュータのIPアドレスを設定し、信頼するコンピュータとして認識させることで、ファイヤウォールを有効にしながらファイル共有ができるようになります。

**Q コンピュータの電源をOFFにしたのに、BBルータのLANのランプが
いたままですが故障でしょうか？**

A 故障ではありません。「Wake On Lan」機能によるものです。

最近のLANアダプタには「Wake On Lan (以下WOL)」という、他のコンピュータから電源をON/OFF操作するための機能がついている物が多くなっています。

「WOL」に対応したLANアダプタでその機能が有効になっている場合、電源ONの信号を受信できるように待機状態になっている必要があるため、コンピュータ自体の電源はOFFになっていても、LANアダプタはBBルータのハブとLINKした(LANのランプが点灯した)状態になります。つまりBBルータ側ではどうすることもできません。

消えるようにするには「WOL」の機能をOFFにする必要がありますので、ご使用のLANアダプタのメーカーか、あるいは標準でコンピュータに搭載されているLANアダプタの場合はコンピュータメーカーに機能を無効にする手順をお問い合わせください。

仕様

有線部		
準拠する標準	LAN 側	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX
	WAN 側	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX
伝送速度	LAN 側	10/100Mbps
	WAN 側	10/100Mbps
ポート	LAN 側	10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 ×4 ポート (Auto MDI/MDI-X)
	WAN 側	10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 ×1 ポート
無線部		
準拠する規格	ワイヤレスLAN標準互換プロトコル準拠 IEEE802.11b 11/5.5/2/1Mbps ARIB STD-T66 (2.4GHz帯小電力データ通信システム規格)	
伝送速度	IEEE802.11b:11/5.5/2/1Mbps	
周波数帯	2.4GHz帯/14チャンネル	
通信距離	最大300m ※遮蔽物の無い見通し距離環境により上記距離を満たせない場合があります。	
アンテナタイプ	ダイポールアンテナ	
ネットワークケーブル	10BASE-T カテゴリ3 以上ツイストペアケーブル (100m) 100BASE-TX カテゴリ5 以上ツイストペアケーブル (100m)	
LED	POWER、WLAN、WAN・LAN、Link/Act	
電源規格	DC 9V、最大1A	
外形寸法 (本体のみ)	220 (W) × 38 (H) × 133 (D) mm (アンテナ部を除く)	
重量 (本体のみ)	400g	
環境	動作温度0~40℃、動作湿度35~70% (結露なきこと)	
EMI	VCCI Class B、FCC Class B、CE	

工場出荷時設定

本製品の工場出荷時の各種設定は以下のようになっています。工場出荷時の設定に戻す処理を行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

項目	設定内容
LAN側	
ログインパスワード	password
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバ設定	有効
DHCP割り当て範囲	192.168.1.20~50
DHCPリース時間	60分
ワイヤレスLAN	
ESS-ID	BLW-04EM
無線ch	6
ESS-IDを隠す	無効
WEP	無効
WAN側	
接続方法	接続方法 通常接続 (DHCP接続)
DHCPクライアント	有効
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS	自動取得
ホスト名	(空欄)
ドメイン名	(空欄)
管理者設定	
ステルスモード	有効
リモートログイン	無効
ログインポート	8080番
ローカルサーバ設定	なし
バーチャルコンピュータ設定	なし
フィルタリング設定	なし
DynamicDNS機能	無効
UPnP機能	有効

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

〈PCIダイレクト〉

<http://direct.planex.co.jp/>

■製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

〈ご質問/お見積もりフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

〈お問い合わせフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/support/techform/>

受付：24時間

〈電話〉

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

* 祝祭日および弊社規定の休業日を除く

〈FAX〉

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

◇お問い合わせ前のごお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力をお願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名 (Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境 (回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容 (現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

■その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

プラネックスコミュニケーションズ

<http://www.planex.co.jp/>

注) 上記内容は2003年7月現在の情報です。内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

質問表

技術的なご質問は、この2ページをプリントして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	4ポート ワイヤレスブロードバンド ルータ
型番 Product No.	BLW-04EM
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

